

# ヨルダン・ハシェミット王国

---

## 貧困プロフィール

2012年3月

独立行政法人 国際協力機構（JICA）

当資料は政府・国際機関の報告書・統計・資料からの抜粋を邦訳し、執務参考資料として取り纏めたものであり、JICA の見解を示すものではありません。転載・引用に際しては、直接、出典元から行い、当資料からの転載・引用は行わないでください。

基盤
JR
12-139

## 目次

I. 当該国の貧困状況の概観（貧困の状況と背景の概観）	1
II. 当該国の貧困削減のための政策枠組み	3
III. 所得貧困による分析	7
1. 貧困線とデータ	7
2. 貧困の状況－貧困率、貧困ギャップ率の分析	8
3. 格差の分析－ジニ係数・所得階層の分析	11
IV. 所得貧困以外による分析	13
1. HDI の概況とトレンド・国際及び地域比較	13
2. 不平等調整済み HDI (IHDI)	14
3. MDG 指標の分析	15
4. 食糧安全保障・脆弱性による分析	16
V. 社会的属性・特性と貧困との関連の分析	20
1. 海外からの送金と貧困	20
2. パレスチナ難民と貧困	21
3. ヨルダン在住イラク人と貧困	22
4. パレスチナ難民以外のグループと貧困	23
5. 貧困の地域分布	23
6. 教育と貧困	26
7. 雇用と貧困	27
8. 社会保障と貧困（補助金の撤廃）	30
VI. 貧困に影響を与えている国内外の要因	32
1. 人口増加	32
2. 世帯構成	32
3. 高失業率及び労働条件	33
4. 労働市場のミスマッチ	33
5. 自発的な失業者	34
6. 外国人労働者	34
7. 近隣地域の安定	36
VII. 当該国のこれまでの JICA 事業における優先分野の中で貧困の視点からの特に重要な事項と貧困との関連分析	37
1. 観光セクター	37
2. 水セクター	39
3. 中小零細企業振興	40
4. 社会的格差の是正	44

添付 1 参考文献リスト.....	47
添付 2 主要な情報源リスト .....	50

#### 図表・地図目次

図表 1 主要指標一覧.....	v
図表 2 貧困率・貧困ギャップ率・二乗貧困率（2006 年） .....	vii
図表 3 HDI 及び HDI 構成要素指数の推移（1980-2011 年） .....	vii
図表 4 HDI 及び HDI 構成要素指数の推移（1908-2011 年） .....	viii
図表 5 MDG 指標（1990-2015 年（目標年）） .....	ix
図表 6 貧困に関する指標（貧困ギャップ率を含む）（1992-2015 年（目標年）） .....	8
図表 7 県別貧困率の推移（2006-2008） .....	9
図表 8 貧困率・貧困ギャップ率・二乗貧困率（2006 年）（再掲） .....	10
図表 9 支出及び収入の伸び率（2002-2006 年） .....	10
図表 10 貧困線と所得分布（2006 年） .....	11
図表 11 ジニ係数及び所得分布（2002 年と 2006 年の比較） .....	12
図表 12 HDI 及び HDI 構成要素指数の推移（1980-2011 年）（再掲） .....	13
図表 13 ヨルダン及び周辺諸国等との HDI 指数比較（1980-2011 年） .....	14
図表 14 ヨルダン及び周辺諸国等との HDI 指数比較（2011 年） .....	14
図表 15 ヨルダンと周辺諸国等との IHDI 比較（2011 年） .....	15
図表 16 MDG 達成に向けた進捗（2010 年時点） .....	16
図表 17 貧困地域における食糧安全保障（2008 年） .....	17
図表 18 食糧安全保障と教育水準の相関（2008 年） .....	19
図表 19 食糧安全保障と世帯規模の相関（2008 年） .....	19
図表 20 ヨルダン送金額（対 GDP 比）推移（2003-2009 年） .....	20
図表 21 所得に含まれる送金額の伸び率（階層別）（2002-2006 年） .....	21
図表 22 ヨルダン在住イラク人およびヨルダン人の教育水準比較（2006 年） .....	22
図表 23 イラク難民貧困率（2006 年） .....	23
図表 24 2006 年貧困率（県別） .....	24
図表 25 都市と地方の貧困率（2006 年） .....	26
図表 26 所得階層別属性分布（教育水準含む） .....	27
図表 27 2006 年雇用状況（世帯における 15 歳以上の世帯構成員の割合） .....	28
図表 28 労働所得の伸び率（2006 年） .....	28
図表 29 階層別世帯所得内訳 .....	29
図表 30 年齢層別男女の就労状況 .....	30
図表 31 補助金削減に伴う 2008 年時点の燃料価格変動 .....	31
図表 32 燃料補助金予算の階層別受給比率（2006 年） .....	31

図表 33	年齢・所得別人口構成（2006年）	32
図表 34	外国直接投資、GDP、失業率推移	35
図表 35	ヨルダン労働者と外国人労働者の雇用推移（2001-2005年）	35
図表 36	ヨルダン観光関連指標推移（2004-2010年）	38
図表 37	観光業における直接・間接雇用水準（2003年対2010年）	39
図表 38	中東・北アフリカ（MENA）におけるMSMEの標準定義	41
図表 39	会社数及び従業員数に占めるMSMEの割合（2006年）	41
図表 40	小規模融資利用者の所得変化（2009年）	42
図表 41	県別失業率の推移（2000年、2004年）	43
図表 42	ジェンダー別労働カステータス（2005年）	45
図表 43	ジェンダーと失業（2005年）	45
地図 1	ヨルダン行政区画	xi
地図 2	2006年貧困率（県別）	xii
地図 3	食糧不安にある地域分布（2008年）	18
地図 4	県別貧困層分布（2006年）	25
地図 5	MSME 県別分布	43

#### 略語表

DOS	Department of Statistics	統計局
GAFTA	Greater Arab Free Trade Area	大アラブ自由貿易地域
GDP	Gross Domestic Product	国内総生産
GNI	Gross National Income	国民総所得
GNP	Gross National Product	国民総生産
GoJ	Government of Jordan	ヨルダン政府
HDI	Human Development Index	人間開発指数
ICT	Information and Communication Technology	情報通信技術
IFAD	International Fund for Agricultural Development	国際農業開発基金
JAAH	Jordanian Alliance Against Hunger	ヨルダン反飢餓同盟
JOHUD	The Jordanian Hashemite Fund for Human Development	ヨルダン人間開発基金
MDG	Millennium Development Goals	ミレニアム開発目標
MENA	Middle East and North Africa	中東・北アフリカ
MoPIC	Ministry of Planning and International Cooperation	計画・国際協力省
MSME	Micro, Small, and Medium Enterprises	中小零細企業
NAF	National Aid Fund	国家支援基金
NTS	National Tourism Strategy	国家観光戦略
QIZ	Qualifying Industrial Zones	資格工業地区
UN	United Nations	国際連合（国連）
UNDP	United Nations Development Programme	国連開発計画
UNHCR	United Nations High Commissioner for Refugees	国連難民高等弁務官事務所

UNRWA	United Nations Relief and Works Agency for Palestine Refugees in the Near East	国連パレスチナ難民救済事業機関
UNWTO	United Nations World Tourism Organization	世界観光機関
WB	World Bank	世界銀行
WFP	World Food Programme	世界食糧計画
WHO	World Health Organization	世界保健機関
WTO	World Trade Organization	世界貿易機関

図表 1 主要指標一覧<sup>1</sup>

2012年1月版

主要指標一覧【ヨルダン】		2000年	2008年	2009年	2010年	2010年の地域平均値
社会指標等	地表面積(1000km <sup>2</sup> )	89	89	89	89	n.a.
	人口(百万人)	4.8	5.8	5.9	6.0	382.8
	人口増加率(%)	2.5	2.2	2.2	2.2	2.0
	出生時平均余命(歳)	72	73	73	n.a.	n.a.
	妊産婦死亡率(/10万人)	79	59	n.a.	n.a.	n.a.
	乳児死亡率(/1000人)	24.6	19.5	18.9	18.4	25.6
	一人当たりカロリー摂取量(kcal/1日)*1	2,672	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
	初等教育総就学率(男)(%)	97.6	96.5	n.a.	n.a.	n.a.
	初等教育総就学率(女)(%)	98.4	97.6	n.a.	n.a.	n.a.
	中等教育総就学率(男)(%)	82.4	89.3	n.a.	n.a.	n.a.
	中等教育総就学率(女)(%)	86.2	93.0	n.a.	n.a.	n.a.
	高等教育総就学率(%)	28.3	41.1	41.8	n.a.	n.a.
	成人識字率(15歳以上の人口の内:%)	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
	絶対的貧困水準(1日1.25\$以下の人口比:%)	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
失業率(%)	n.a.	12.7	12.9	n.a.	n.a.	
経済指標	GDP(百万USドル)	8,464	22,697	25,092	27,574	2,468,405
	一人当たりGNI(USドル)	1,790	3,670	4,000	4,340	n.a.
	実質GDP成長率(%)	4.2	7.6	2.3	3.1	3.7
	産業構造(対GDP比:%)					
	農業	2.3	2.6	2.9	2.9	n.a.
	工業	25.5	32.6	31.6	30.6	n.a.
	サービス業	72.1	64.8	65.5	66.5	n.a.
	産業別成長率(%)					
	農業	5.4	0.1	18.4	6.6	n.a.
	工業	4.1	8.0	1.0	1.7	n.a.
	サービス業	5.0	7.2	3.5	6.0	n.a.
	総資本形成率(対GDP比:%)	22.4	24.0	14.8	15.3	n.a.
	貯蓄率(対GDP比:%)	-4.3	-6.0	-6.7	-6.1	n.a.
	消費者物価上昇率(インフレ:%)	0.7	14.9	-0.7	5.0	n.a.
	財政収支(対GDP比:%)	-2.0	-2.1	-8.5	n.a.	n.a.
	中央政府債務残高(対GDP比:%)	93.7	55.0	57.9	n.a.	n.a.
	貿易収支(対GDP比:%)	-26.7	-30.0	-21.5	-21.4	n.a.
	経常収支(対GDP比:%)	0.3	-9.0	-4.5	-4.8	n.a.
	外国直接投資純流入額(百万ドル)	905	2,814	2,354	1,673	29,412
対外債務残高(対GNI比:%)	85.9	28.1	25.7	27.9	n.a.	
DSR(対外債務返済比率:%)	17.6	19.7	4.8	4.9	n.a.	
総外貨準備高(輸入支払い可能月数)	6.5	5.4	8.6	8.8	24.6	
総外貨準備高(百万ドル)	3,441	8,918	12,135	13,633	1,125,135	
名目対ドル為替レート*2	0.71	0.71	0.71	0.71	n.a.	
(Dinars per US Dollar: Period Average)						
政治*	政治体制:立憲君主制。国王が最高権力者					
憲法	憲法:1952年1月発効。84年一部改正					
元首	元首:国王。アブドラー・ビン・フセイン(ABDULLAH Bin al-Hussein)。1999年2月7日即位					
議会	議会:二院制。上院60議席(国王が任命)、下院120議席(直接選挙制)。任期はともに4年					
内閣	内閣:首相は国王が任命、下院に責任を負う。首相 アウン・シャウカト・アル・ハサーウネ(Awn Shawkat Al-Khasawneh) 2011年10月24日発足					

出典 World Development Indicators Online (December 2011) World Bank

\*1 FAO Food Balance Sheets (June 2010) FAOSTAT Homepage

\*2 International Financial Statistics Online (January 2012) IMF

\*3 世界年鑑 2011 共同通信社、各国・地域情勢 2011年11月 外務省Homepage

注 ● 地域平均値は中東・北アフリカの数値(地域分類は別添参照)

● 「人口」、「GDP」、「外国直接投資純流入額」及び「総外貨準備高」の「2009年の地域平均値」においては、地域の総数を示す

● 妊産婦死亡率の数値はWHO・ユニセフ・国連人口基金(UNFPA)の評価を反映した推定値

● 総就学率は、学齢人口に占める就学者総数(年齢を問わない)の割合であるため、数値が100を超えることがある

<sup>1</sup> JICA 研究所にて年3回改定。( <https://libportal.jica.go.jp/fmi/xsl/library/public/data/shihyo-p.html> )

## 中央政府歳入・歳出【ヨルダン】

	2007年	2008年	2009年	2009年		対ドルレート
	(百万ディナール)	(百万ディナール)	(百万ディナール)	(百万US\$)*	対GDP比**	
歳入	3,972	4,738	4,521	6,368	26.7%	0.71
租税収入	2,995	2,758	2,880	4,056	17.0%	
社会保障	18	21	21	29	0.1%	
贈与受取	343	718	333	470	2.0%	
その他	615	1,241	1,287	1,813	7.6%	
歳出	4,111	4,899	5,090	7,168	30.1%	16.912
人件費	1,068	2,389	2,533	3,568	15.0%	
財貨・サービス	201	269	569	802	3.4%	
固定資本減耗	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	
利払い	321	378	392	552	2.3%	
補助金	22	525	261	367	1.5%	
贈与支払	11	202	280	395	1.7%	
扶助費	1,049	881	977	1,375	5.8%	
その他	1,439	255	78	109	0.5%	
非金融資産の純増	430	178	941	1,325	5.6%	
財政収支	-569	-339	-1,509	-2,125	-8.9%	

## 総支出内訳(目的別分類)【ヨルダン】

	2007年	2008年	2009年		2009年	
	(百万ディナール)	(百万ディナール)	(百万ディナール)	内訳	(百万US\$)*	対GDP比**
総支出	4,540	5,077	6,030	100.0%	8,493	35.7%
一般サービス	733	830	967	16.0%	1,362	5.7%
国防	758	952	997	16.5%	1,404	5.9%
公安	399	551	694	11.5%	978	4.1%
経済関連	343	433	553	9.2%	778	3.3%
農林水産業	67	46	n.a.	-	n.a.	n.a.
エネルギー	1	9	n.a.	-	n.a.	n.a.
鉱工業・建設業	37	8	n.a.	-	n.a.	n.a.
運輸	172	204	n.a.	-	n.a.	n.a.
通信	19	22	n.a.	-	n.a.	n.a.
環境保全	5	6	5	0.1%	7	0.0%
住宅・生活関連施設	38	169	292	4.8%	411	1.7%
保健・医療	324	526	698	11.6%	983	4.1%
レクリエーション・文化	39	99	101	1.7%	142	0.6%
教育	631	591	625	10.4%	880	3.7%
社会保障・福祉	1,270	922	1,100	18.2%	1,549	6.5%
調整値	0	0	0	0.0%	-1	0.0%

注: 総支出内訳における総支出には非金融資産の純増を含む

会計年度は1月～12月

\*: 対ドル換算レートはOfficial Rate, Period Average 出典はInternational Financial Statistics (Online) January 2012 IMF

\*\*: GDPの出典はThe World Economic Outlook September 2011 IMF Homepage

出典: Government Finance Statistics (CD-ROM) September 2011 IMF

## JICAの対ヨルダン技術協力

通貨単位	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	累計
億円	9.75	9.15	10.68	10.50	10.93	296.61
百万ドル	8.38	7.77	10.32	11.22	12.45	

注: 年の区切りは日本の会計年度(4月～3月), また対ドル換算レートはOECD Homepageによる

出典: JICA技術協力実績

## 対ヨルダンODA実績

## 《我が国》

(支出純額、単位: 百万ドル)

暦年	政府貸付等	無償資金協力	技術協力	合計
2005年	-37.60	52.07	9.08	23.55
2006年	-49.62	25.98	8.06	-15.58
2007年	-56.36	18.52	9.54	-28.31
2008年	-81.97	21.47	10.42	-50.08
2009年	-98.51	30.29	10.84	-57.37
累計	869.92	527.35	251.87	1,649.19

## 《DAC諸国・国際機関》

(支出純額、単位: 百万ドル)

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	うち日本	合計
2006年	米国 329.50	ドイツ 17.18	イタリア 9.56	スペイン 8.02	カナダ 5.51	-15.58	361.83
2007年	米国 259.51	ドイツ 27.87	スペイン 10.26	カナダ 8.80	イタリア 7.54	-28.31	289.45
2008年	米国 384.05	ドイツ 21.72	イタリア 17.50	スペイン 12.65	カナダ 7.68	-50.08	416.55

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	その他	合計
2006年	UNRWA 100.80	CEC 50.23	UNTA 1.56	UNFPA 1.11	UNICEF 0.77	2.46	156.93
2007年	UNRWA 110.93	CEC 67.33	GEF 12.85	UNICEF 2.27	GFATM 1.76	0.15	195.29
2008年	UNRWA 130.80	CEC 122.45	GEF 6.57	IFAD 4.16	GFATM 1.24	4.71	269.93

注: 年の区切りは1月～12月の暦年。DAC累計ベース

出典: ODA国別データブック 2010 外務省

図表 2 貧困率・貧困ギャップ率・二乗貧困率（2006年）<sup>2</sup>

**Table I.15. Incidence of poverty in Jordan 2006**

Governorate	Actual estimates			Ranking		
	% of poor	Gap ratio	Severity ratio	% of poor	Gap ratio	Severity ratio
Amman	9.43	1.83	0.56	1	1	1
Balqa	15.28	3.50	1.17	6	6	6
Zarqa	14.87	2.80	0.83	5	4	3
Madaba	9.99	2.39	0.79	2	2	2
Irbid	12.11	2.71	0.93	3	3	4
Mafraq	22.98	5.96	2.50	12	12	12
Jarash	16.65	4.05	1.36	8	9	9
Ajlun	17.67	4.00	1.35	9	8	8
Karak	21.68	4.90	1.54	11	11	10
Tafiela	19.13	3.97	1.21	10	7	7
Maan	12.71	2.90	1.02	4	5	5
Aqaba	15.46	4.56	1.74	7	10	11
Jordan	12.99	2.80	0.93	6.5	6.5	6.5

図表 3 HDI 及び HDI 構成要素指数の推移（1980-2011年）<sup>3</sup>

**Table A: Jordan's HDI trends based on consistent time series data, new component indicators and new methodology**

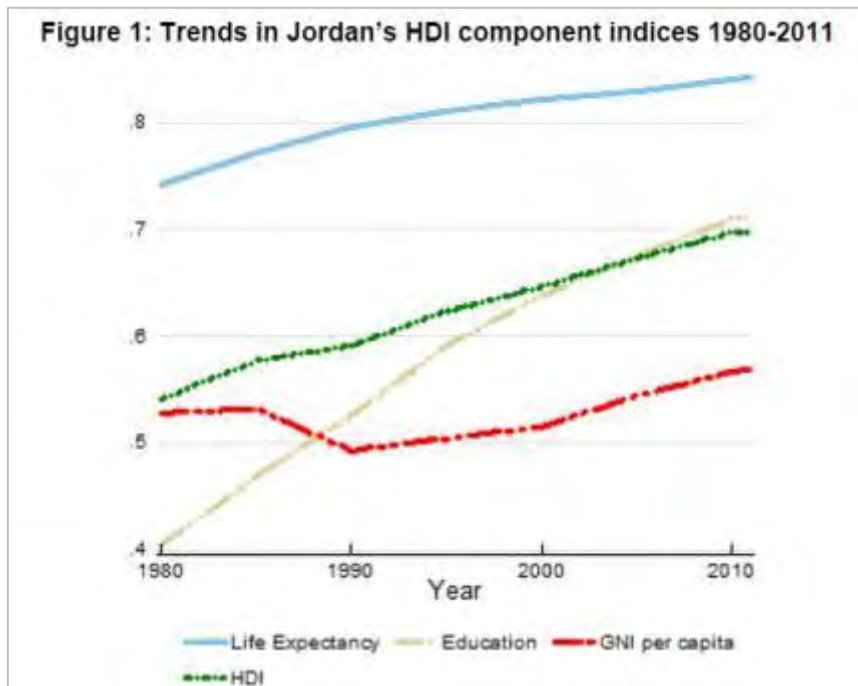
	Life expectancy at birth	Expected years of schooling	Means years of schooling	GNI per capita (2005 PPP\$)	HDI value
1980	67.0	12.0	3.1	3,980	0.541
1985	69.0	12.4	4.0	4,116	0.577
1990	70.4	12.2	5.1	3,121	0.591
1995	71.4	12.2	6.4	3,371	0.623
2000	72.0	12.5	7.3	3,640	0.646
2005	72.6	12.8	8.0	4,450	0.673
2010	73.3	13.1	8.6	5,251	0.697
2011	73.4	13.1	8.6	5,300	0.698

<sup>2</sup> WB/MoPIC (2009), Hashemite Kingdom of Jordan, Poverty Update, (In Two Volumes) Volume II: Appendices, p. 17.  
[http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2009/11/19/000333038\\_20091119234859/Rendered/PDF/479510ESW0v20P1C0disclosed011118191.pdf](http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2009/11/19/000333038_20091119234859/Rendered/PDF/479510ESW0v20P1C0disclosed011118191.pdf) (2012年2月3日アクセス)

<sup>3</sup> UNDP (2011), Human Development Report 2011, Sustainability and Equity: A Better Future for All, Explanatory note on 2011 HDR composite indices, p. 2.  
<http://hdrstats.undp.org/images/explanations/JOR.pdf> (2012年2月3日アクセス)



図表 4 HDI 及び HDI 構成要素指数の推移 (1980-2011 年)<sup>4</sup>



<sup>4</sup> UNDP (2011), Human Development Report 2011, Sustainability and Equity: A Better Future for All, Explanatory note on 2011 HDR composite indices, p. 2.

図表 5 MDG 指標 (1990-2015 年 (目標年))<sup>5</sup>

LIST OF MDGs INDICATORS

Indicators	Years					
	1992 1990	2002 2001	2006	2008	2009	2015
<b>Goal 1: Eradicate Extreme Poverty and Hunger</b>						
Proportion of population below extreme poverty line	6.6	4	2.3	0.75	-	3.3
Poverty gap ratio	5.3	3.3	2.8	2.6	-	2.7
Share of poorest 20% quintile in overall consumption	6.5	6.9	7.7	11.2	-	10
Employees' per capita share of GDP in Jordan/JD	5430	4732		6652	6606	
Employment-to-population ratio	34.4	34	32.7	34.5	35	
Proportion of own-account and contributing family workers in total employment	19.2	18.9	-	15.5	15.9	
Prevalence of under weight children under 5 years of age (%)	6.4	4.4	-	-	1.9	3.2
Proportion of population below minimum level of dietary energy consumption	6.6	4.0	2.3	-	-	3.3
<b>Goal 2: Achieve Universal Basic Education</b>						
Net enrolment ratio in basic education	86.7	96.2	97.6	97.6	97.6	100
Proportion of pupils starting grade 1 who reach 5 grade	92.2	96	99	99	99	100
Literacy rate of 15-24 year-old,	97.4	98.72	-	99.1	99.1	100
<b>Goal 3: Promote Gender Equality and Empower Women</b>						
Ratio of girls to boys in basic education	94	96	96	96.3	97.8	100
Ratio of girls to boys in secondary education	105	102	104	104	110	100
Ratio of girls to boys in tertiary education	104	112	-		107	100
Share of women in wage employment in the non-agricultural sector	11	14.4	13.8	15.7	16.2	50
Proportion of seats held by women in national parliament	-	-	5.8	6.4		*
<b>Goal 4: Reduce Child Mortality</b>						
Children under five mortality rate per 1,000 live births	39	27	-	-	28	13
Infant mortality rate (0-1 year) per 1,000 live births	34	22	-	-	23	11.3
Proportion of 1 year-old children immunized against measles	85	95.2	-	-	103	100
<b>Goal 5: Improve Maternal Health</b>						
Maternal mortality ratio per 100,000 live births	48	-	-	-	19	12
Proportion of births attended by skilled health personnel (%)	87	99	-	-	99	100
Contraceptive prevalence rate	40.2	55.8	-	-	59.3	65.8
Adolescent birth rate	7.4	4.3	-	-	4.7	2

<sup>5</sup> MoPIC/UN Jordan (2010), Keeping the Promise and Achieving Aspirations, Second National Millennium Development Goals Report, pp. 107-108.

[http://www.undp-jordan.org/uploads/publications/UN\\_1292424706.pdf](http://www.undp-jordan.org/uploads/publications/UN_1292424706.pdf) (2012年2月3日)

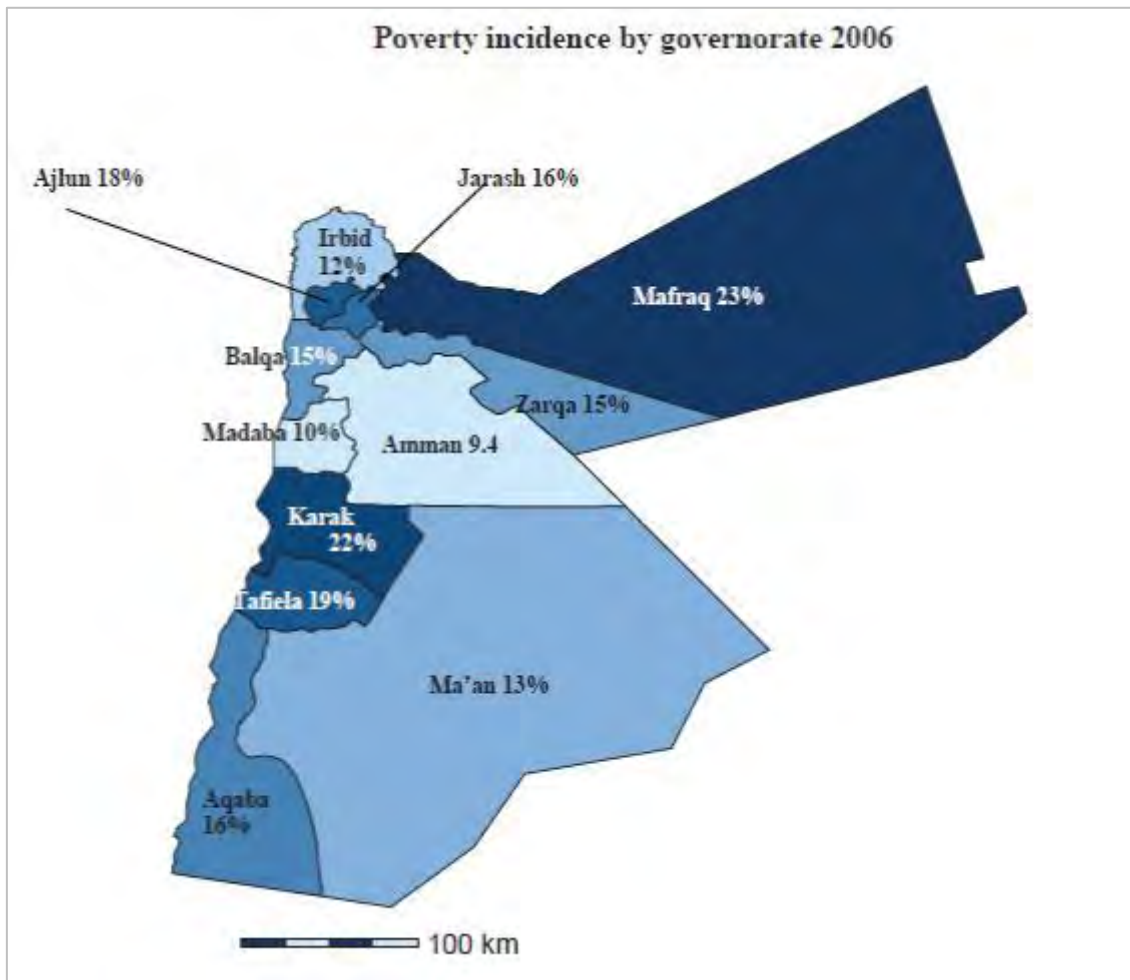
Indicators	Years					
	1992 1990	2002 2001	2006	2008	2009	2015
Antenatal care coverage (at least one visit and at least four visits)	80.2	98.6	-	-	98.8	100
Unmet need for family planning	22	11		12	11	-
<b>Goal 6: Combat HIV/AIDS, Malaria and other Major Diseases</b>						
Proportion of population with advanced HIV infection with access to antiretroviral drugs	100	100	100	100	100	100
Tuberculosis incidence rate per year per 100,000 population	14	6.4	-	-	6	-
Proportion of tuberculosis cases detected and cured under directly observed treatment short course	60	77	-	-	86	100
<b>Goal 7: Ensuring Environmental Sustainability</b>						
Proportion of land area covered by forest	0.44	0.84		0.90		*
Carbon dioxide emissions, total, per capita and per \$1 GDP (PPP)	2.2	-	2.3	-	-	
Consumption of all Ozone-Depleting Substances in ODP metric tons	100	7	-	-	-	
Proportion of terrestrial and marine areas protected	0.14			1.4		*
Proportion of species threatened with extinction:						
Mammals	-	11	-	10.3		
Birds	-	0.2	-	1.6		
Reptiles	-	5	-	7.8		
Amphibians	-	25	-	-		
Vascular plants	-	5	-	1		
Proportion of population using an improved drinking water source	92.8	97	98.1	98.4		*
Proportion of the population using improved sanitation facilities	48	60.1		62.15		70
<b>Goal 8: Develop a Global Partnership for Development</b>						
Ratio of external debt to GDP	-	74.6	-	22.5	21.7	*
Average custom tariff applied	-	13.1	11.5	10.8	-	
FDI to GDP (%)	-	5.4	15.8	12.5	9.6	
Mobile cellular telephone subscriptions per 100 population	-	20.8	-	94.3	96.5	*
Telephone lines per 100 population	-	57	-	30.7	26	*
Personal computers per 100 population	-	9.8	-	39.3	54.3	*
Internet users per 100 population	-	4.8	-	21.6	25.8	*

地図 1 ヨルダン行政区画<sup>6</sup>



<sup>6</sup> MoPIC ウェブサイトより入手。<http://www.espp.gov.jo/index.htm> (2012年2月3日アクセス)

地図 2 2006 年貧困率（県別）<sup>7</sup>



<sup>7</sup> WB/MoPIC (2009), Hashemite Kingdom of Jordan, Poverty Update, p. ii.  
[http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2009/11/19/000333038\\_20091119234547/Rendered/PDF/479510ESW0v10P1C0disclosed011118191.pdf](http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2009/11/19/000333038_20091119234547/Rendered/PDF/479510ESW0v10P1C0disclosed011118191.pdf) (2012年2月3日アクセス)

## I. ヨルダンの貧困状況の概観（貧困の状況と背景の概観）

ヨルダンは、近年マクロ経済の安定及び経済構造の変化に伴い、目覚ましい発展を遂げている。また、同時に人間開発を国家の優先事項として取り組みの強化に取り組んでいる。しかし、こうした発展・取り組みの一方で、人間開発及び貧困における地域間格差は依然として深刻である。また特に若者の間では失業率が懸案事項となっている。加えて、近隣諸国への経済依存、水等の天然資源不足、中東地域での政治情勢を背景とした人口流入がもたらす高い人口成長率は、ヨルダンの開発にとって主要な制約要因となっている<sup>8</sup>。貧困は、人間の尊厳の保障に向けたプロセスを弱体化または阻むことである。その為人間開発に資する目標を達成しようとするのであれば、貧困削減を主要課題として取り組むことが必要である<sup>9</sup>。

1997年から2003年の間、ヨルダンの貧困率は21.3%から14.2%に低下した。この著しい低下の要因としては、非識字率の低下（22%から13%）、1人当たりの所得上昇、貿易自由化<sup>10</sup>及び労働機会の拡大といった政府の取り組みが貢献している。しかし、こうした進展の一方で、地域間での貧困格差が大きく、貧困層の割合は、都市よりも地方が約50%も多い状況にある<sup>11</sup>。主に砂漠地域に近接する75の地区（sub-district）のうち12の地区では貧困率が極めて高く、同地区に住む人口の75%が貧困である。また、ヨルダンの貧困は、景気の低迷や国内外の経済ショックに極めて脆弱であり、経済状況次第では新たに人口の2%が貧困に陥る高いリスクを抱えている<sup>12</sup>。

ヨルダンでは、貧困は都市部及び地方部に広く存在している。都市部には全人口の約80%が居住しているが、慢性的な低い社会サービス（保健、教育、社会福祉等）へのアクセス、高い失業率等から脆弱性が高くなっている<sup>13</sup>。他方で全人口の約20%がいる地方部では、季節労働や日雇い労働を通じた賃金獲得の機会提供および食料確保のための家計負担低減の役割を果たしている<sup>14</sup>。

<sup>8</sup> UNDP (2007), Assessment of Development Results, Jordan, Evaluation of UNDP Contribution, p. i.

<sup>9</sup> MoPIC/UNDP Jordan (2011), Jordan Human Development Report 2011, Small Businesses and Human Development, p. 34.

<sup>10</sup> ヨルダンは、2000年にWTOに加盟し、対外的な開放政策の促進によってサービス部門及びQIZ（Qualifying Industrial Zones）への外国投資の流入に拍車をかけた（QIZとは、一定のイスラエル産原材料を用いた製品に対し、米国への非関税輸出を認めた米国、ヨルダン、イスラエルの三角貿易協定。経済統合による中東地域の繁栄及び安定を支援するために開始されたイニシアティブ）。また、ヨルダンは、1997年に欧州・地中海協定に署名したほか、米国との自由貿易地域（US Free Trade Area）及び大アラブ自由貿易地域（GAFTA）に加盟した。但し、こうした協定による利益にもかかわらず、ヨルダン政府の貧困削減のための国内改革実施に向けた取り組みは、国際金融機関やドナーによって課された条件によって相殺されてしまった。具体的には、財政赤字削減及び公的部門再構築に向けた改革は、多くのヨルダン人にとって重要な雇用機会の喪失や公的部門の雇用凍結を招いた。（UNDP (2007), Assessment of Development Results, Jordan, Evaluation of UNDP Contribution, p. 11.）

<sup>11</sup> 都市（urban）と地方（rural）の区別・定義に関し、世銀のPoverty Update、Poverty Assessmentを確認したが、明確な定義は記されていない。

<sup>12</sup> UNDP (2007), Assessment of Development Results, Jordan, Evaluation of UNDP Contribution, pp. 9-10.

<sup>13</sup> <http://www.johud.org.jo/Urban-communities.html>より参照（2012年2月6日アクセス）

<sup>14</sup> MoPIC/UNDP Jordan/JOHUD (2004), Jordan Human Development Report 2004, Building sustainable livelihoods, p. 64.

農業のGDPに占める割合は3%、国土の5%が農業に利用とヨルダン全土での貢献は限定的であるものの、

このように、貧困削減はヨルダンの開発において引き続き主要課題となっている。貧困削減問題を扱う際の課題は、貧困克服に関する選択肢や意見を支持する適切な政策及び制度的な環境づくりである。これを達成するためには、貧困層自体が分析の中心に置かれ、且つ貧困削減プロセスに参加するよう促されなければならない<sup>15</sup>。

---

農業から派生した関連部門も合わせると GDP への寄与度はさらに高くなるとの指摘がある。  
[http://www.ifad.org/evaluation/public\\_html/eksyst/doc/prj/region/pn/jordan/r392jo.htm](http://www.ifad.org/evaluation/public_html/eksyst/doc/prj/region/pn/jordan/r392jo.htm) 参照（2012年2月6日アクセス）。

<sup>15</sup> MoPIC/UNDP Jordan/JOHUD（2004）, Jordan Human Development Report 2004, Building sustainable livelihoods, p. 15.

## II. ヨルダンの貧困削減のための政策枠組み<sup>16</sup>

ヨルダンには貧困削減戦略書 (PRSP) は存在しないものの、ヨルダン政府の貧困削減に向けた取り組みは、1998 年以降長年に亘って採用された一連の社会開発計画に受け継がれてきている。代表的なものに 1998 年の社会生産性プログラム (Social Productivity Programme)、社会・経済変革プログラム 2002-2004 (Social and Economic Transformation Programme)、国家経済・社会開発計画 2004-2006 (National Social and Economic Development Plan) がある。現在のヨルダンの発展に向けた青写真として、包括的な開発計画が 2006-2015 年の国家アジェンダ (National Agenda) に盛り込まれ<sup>17</sup>、同アジェンダの提言を行政開発計画 2011-2013 (Executive Development Program) で反映させる取り組みを行っている。それぞれの計画・政策の概要は以下の通りとなっている。

### ● 社会生産性プログラム<sup>18</sup>

1998 年に開始された社会生産性プログラムは、公的支援の対象分野の効果的に絞り込むこと、コミュニティ・インフラ強化プロジェクトの実施、中小企業開発を通じた雇用・所得創出機会の提供及び職業訓練・雇用支援機会の提供等によって、貧困層の生活状況改善における速やかな成果を出すことを目的として策定された。これらの措置は概ね成果があったとみなされ、後に生産性強化プログラム (Enhanced Productivity Programme) の下で地方群コミュニティ開発プログラム (Rural Cluster Community Development Programme) 及びコミュニティ・インフラプログラム (Community Infrastructure Programme) に拡大・統合されることとなった。

### ● 社会・経済変革プログラム<sup>19</sup>

ヨルダン政府は、それまでに実施された計画のその成果及び教訓に基づき、2002 年に社会・経済変革プログラムを開始した。それまでの計画では、直接対象となった人々が裨益したが、より長期に亘る持続可能な発展の為には、貧困層全てに行き届くためのよりマクロ的な手法を必要としていた。このため、社会・経済変革プログラムは、開発分野における官民双方の投資を増やすことを目的として、ドナー間の相乗効果および教育を含む制度的な規制枠組みを生み出すために策定された。

### ● 国家経済・社会開発計画 2004-2006<sup>20</sup>

ヨルダン政府の社会・経済開発持続に向けた方針は、2004-2006 国家経済・社会開発

<sup>16</sup> ヨルダン政府による指定貧困集団に関し、パレスチナ難民については政府が貧困集団として指定した旨の関連情報が見つからなかったため、本章での記述はしていないが、貧困との観点から特筆すべき要素であるため、V、VII にて後述した。

<sup>17</sup> UNDP (2007), Assessment of Development Results, Jordan, Evaluation of UNDP Contribution, p. 11.

<sup>18</sup> UNDP (2007), Assessment of Development Results, Jordan, Evaluation of UNDP Contribution, pp. 11-12.

<sup>19</sup> UNDP (2007), Assessment of Development Results, Jordan, Evaluation of UNDP Contribution, p. 12.

<sup>20</sup> UNDP (2007), Assessment of Development Results, Jordan, Evaluation of UNDP Contribution, p. 12.



計画 2004-2006 の採択につながった。それまでの開発計画とは異なり、同計画は、アブドゥラー国王陛下の勅命に応える形で、全ての省及び政府機関が独自の明確なビジョン及び作業計画の発展を強調したものとして特徴付けられた。同計画の柱は、社会・経済変革プログラム実施における問題点として指摘された資金不足等によるドナー支援への依存度を減らし、政府が今まで以上に社会・経済開発を管理することにあった。ヨルダン政府は、貧困削減とガバナンスを関連付けながら、投資及び改革の成果としてもたらされる税収の増加、財政再構築及び債務返済削減による貯蓄の増加を通じて、同計画の下で実施されるプログラムへの資金調達を行い、ガバナンス部門における改革の成果を最大化することに重点を置いた。同計画は、教育、職業訓練、保健、インフラ、水道供給、地方開発、制度改革を含む貧困層に対する前向きな成果を生むために策定されたイニシアティブであったが、貧困対策としての戦略がどのように目標を達成するかについては、明確な方法は示されなかった。

#### ● 国家アジェンダ 2006-2015<sup>21</sup>

国家アジェンダ 2006-2015 は、ヨルダンの着実な開発を目指し<sup>22</sup>、世界的な知識経済としてヨルダンを発展させるための青写真として策定された。同アジェンダは、政府の政策というよりも、MDG を含むヨルダンの開発に対する包括的なアプローチとしての様相を呈しており、ヨルダン人の生活の質の改善、力強い経済の構築、基本的な自由及び人権の保障等を主な目的としている。

基本的な原則としては、以下の 6 点となっている

- ・ 全ヨルダン人に対し共通ビジョンの構築
- ・ 上記ビジョンを目標に取り入れるための高い参加プロセスの構築
- ・ 社会・経済開発イニシアティブに対する全体主義的アプローチの採用
- ・ 目標達成のための公的部門プログラムと支出の適合
- ・ ヨルダンの国際競争力の改善
- ・ アジェンダの目標達成に関する政府責任を保ちながらの政府の実績評価の制度化

第 1 フェーズ（2007–2012 年）では、全ての人々に対する雇用機会（**Employment Opportunities for All**）の提供が優先事項とされ、輸出志向・労働集約型産業の促進、技能の再構築に向けた労働力教育・訓練、インフラ投資、政治規制法改革、政治参加の拡大が含まれている。同アジェンダでは、特に女性差別の撤廃に注意が払われている。また、第 2 フェーズ（2013–2017 年）では、産業基盤の漸進的な改変・強化、資本集約型産業の拡大、サービス部門の強化、知識経済における高付加価値部門の発展に向けた基盤づくりに焦点が当てられている。さらに、第 3 フェーズ（2018 年以降）では、ヨルダンが知識経済における世界的な競争相手としての地位を確保することを想定している。

<sup>21</sup> UNDP (2007), Assessment of Development Results, Jordan, Evaluation of UNDP Contribution, pp. 12-13.

<sup>22</sup> IFAD (2007), Enabling the rural poor to overcome poverty in Jordan, p3

また、同アジェンダを補完するフレームワークの中で、貧困緩和戦略（Jordan Poverty Alleviation Strategy）、国家小規模融資戦略（National Strategy for Microfinance）、国家農業開発戦略 2002-2010（National Strategy for Agricultural Development 2002-2010）が主に地方の貧困削減を目標として策定されている。これらの概要は以下の通りである。

戦略名	概要
貧困緩和戦略	<p>貧困層の教育、保健、雇用機会を改善するためのロードマップを纏めたもの。より多くの貧困層の取り込み、労働世帯の支援を目的とした国家支援基金の拡大、民間部門における雇用創出及び賃金引上げへの働きかけ、特定のコミュニティにおけるビジネス開発促進、インフラ改善、栄養改善・病気予防、ジェンダー格差の改善等に焦点が当てられている。また、各県におけるビジネス支援センターの設立、複数の村のグループ化による地方企業の発展、持続可能な小規模融資についても取り組まれている。</p>
国家小規模融資戦略	<p>ファシリテーターとしての政府の役割及び市場志向型経済におけるベストプラクティスに従った小規模融資サービス提供者としての民間部門の役割を明確にしたものである。特に手頃でより効果的な小規模融資の普及を確実にするための環境づくり及び能力向上に特化した政府の役割が想定された。</p>
国家農業開発戦略	<p>地方の人々の技術、資源へのアクセスを強化し地方の生計手段を改善・多様化が目的。具体的には、高地地方を支援・開発するため、以下3点が掲げられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経済的、社会的、環境的な側面における持続可能な農業開発の達成</li> <li>・ 土壌、水等天然資源の最適化利用を通じた地方の貧困削減及び食糧安全保障の達成</li> <li>・ 農家に対する利用可能な金融・市場調査サービスの</li> </ul> <p>またこのほか、同戦略は市場のネットワークを改善することで地方経済の再生、作物収穫後の高い歩留まりの確保、品質管理及び品質標準化に関するメカニズムの導入を重要視した。そのため、具体的な取組としては、最先端技術の導入促進、地方における革新的な資金引渡しメカニズム、農業加工・農業市場調査の促進、食糧安全の確保、食糧安全保障の改善に優先順位が置かれた。</p>

- 行政開発計画 2011-2013<sup>23</sup>

行政開発計画は、経済成長を刺激し、貧困削減によるヨルダン人の生活水準向上、持続可能な経済成長を通じた雇用の創出を含む国家アジェンダの目標を行政活動に反映させる目的で策定された。また、同計画は投資・輸出の促進を通じた財政再建および国際収支改善、インフレ抑制、財政赤字・公的債務の削減、水および代替エネルギー資源の開発、人間開発に重点を置いている。

ヨルダンの社会保障は、社会保険、公務員および軍人向け公的プログラム（段階的な廃止を予定）、国家救援基金（NAF: National Aid Fund）や補助金の給付を通じた社会支援プログラム、UNRWA が提供するパレスチナ難民支援の 4 つの主要プログラムに大別される。ヨルダン政府は社会保障の拡大を公約しているが、社会保障の恩恵を受けるのは一部の人々に限られており、貧困層が多く存在する零細企業や農業関係者への普及が課題となっている。他方、国家アジェンダを通じた社会・経済開発プログラムに必要な資金を確保するためには、公的債務や財政赤字を解消する財政改革が急務であり、改革の実施内容として補助金の撤廃、年金制度の効率化等が含まれている。

国家救援基金は、1996 年の Law no.(36)により、支援を必要とする特に貧困に苦しむ人々及びその家族（poorest of the poor）<sup>24</sup>に対して継続的または緊急的に財政支援を行うことを目的として設置された独立機関である。財政支援の他にも、雇用や農業機会の提供、保健省に対して財政的に困窮する人々に対する健康保険カードの発行を提案、職業訓練機会の提供等を主要業務としている。主要サービスとして、以下 7 つのプログラムがある<sup>25</sup>。

- Assistance for Physical Rehabilitation Program
- Cash Assistance Programs for Handicapped Care
- Emergency and Exceptional Aid
- Group Rehabilitation Program
- Health Insurance Program
- Recurrent Cash Assistance Program
- Vocational Habilitation Program

---

<sup>23</sup> MoPIC (2011), Overview: Jordan's Executive Development Program (2011-2013), pp. 1-2.

<sup>24</sup> NHDR p70-71

<sup>25</sup>

<http://images.jordan.gov.jo/wps/wcm/connect/gov/eGov/Government+Ministries+ +Entities/National+Aid+Fund/General+Information/>（2012 年 2 月 6 日アクセス）

### III. 所得貧困による分析

#### 1. 貧困線とデータ

ヨルダンの最新の貧困線は、2006年に実施された家計収入支出調査（Household Income and Expenditure Survey）を元に計画・国際協力省(MoPIC)統計局及び世界銀行(WB)によって算出されている。2006年の貧困線は、それまでヨルダンで用いられていた貧困線と同様に、最低限の消費水準にも達することのできない人々が貧困であるという概念に基づいている<sup>26</sup>。

貧困線は、食料品と非食料品それぞれにかかる費用の和で構成されている。貧困線設定用の食料品にかかる費用は、(i) 1日あたりの必要摂取量が2,340カロリー、(ii) 1,000カロリーを摂取するための平均費用が0.28ヨルダン・ディナール（以下JOD）<sup>27</sup>、の2点を前提として、2006年時点で毎月1人あたり19.9JODであった。非食料品にかかる費用は、食料費用が貧困線設定用の水準にある世帯の非食料品支出額を元に算出され、毎月1人あたり26.4JODであった。以上から、食料・非食料費用の両方を含む貧困線は毎月1人あたり46.3JOD（年間556JOD）と設定され<sup>28,29</sup>、2006年の貧困率は13%となった<sup>30,31</sup>。

ヨルダンの2006年家計収入支出調査は貧困線算出のベースとなる家計の食料消費量に関する情報を含んでしる。しかし、一部の食料品目については、ヨルダン政府から1日あたりに必要な摂取熱量を算出する詳細な熱量換算係数（calorie conversion factor）が得られなかった。但し、世銀はFAOからの情報を元に、不足する熱量換算係数を補完したことから、データ全体に与える影響は少ないと思われる<sup>32</sup>。

---

<sup>26</sup> WB/MoPIC (2009), Hashemite Kingdom of Jordan, Poverty Update, (In Two Volumes) Volume I: Main Report, p. 1.

消費/支出データは、所得データよりも家計調査を通じてより正確な調査結果が得られると考えられている。その理由としては、所得に関しては各世帯が情報を開示したがる傾向にあること、また、所得の変動に対して消費や支出の調整がある程度可能であることから、消費や支出情報の方が生活水準を測る指標として、より信頼性が高いことが挙げられる。WB/MoPIC (2009), Hashemite Kingdom of Jordan, Poverty Update, (In Two Volumes) Volume I: Main Report, p. 1.

<sup>27</sup> 1ヨルダン・ディナール（JD）＝113.836円（2012年3月現在、JICA平成23年度精算レートによる）。

<sup>28</sup> WB/MoPIC (2009), Hashemite Kingdom of Jordan, Poverty Update, (In Two Volumes) Volume I: Main Report, p. 1.

<sup>29</sup> 詳しい貧困線設定方法については、WB/MoPIC (2009), Hashemite Kingdom of Jordan, Poverty Update, (In Two Volumes) Volume II: Appendices, pp. 8-16.参照。

<sup>30</sup> WB/MoPIC (2009), Hashemite Kingdom of Jordan, Poverty Update, (In Two Volumes) Volume I: Main Report, p. i.

<sup>31</sup> その後2008年の同調査を元に見直しが行われており、2008年の貧困率は13.3%と若干上昇している。これに伴い、地区（sub-governorate）の25%もしくはそれ以上の人口が貧困線以下で生活する貧困地域（poverty pocket）の数は2006年に22あったのが、2008年には32に増加した。（UNDPウェブサイト参照）[http://jobs.undp.org/cj\\_view\\_job.cfm?cur\\_job\\_id=25937](http://jobs.undp.org/cj_view_job.cfm?cur_job_id=25937)

<sup>32</sup> WB/MoPIC (2009), Hashemite Kingdom of Jordan, Poverty Update, (In Two Volumes) Volume II: Appendices, p. 11.

図表 6 貧困に関する指標（貧困ギャップ率を含む）（1992-2015 年（目標年））<sup>33</sup>

Table (1-1): Poverty indicators in Jordan - selected years

Year	Proportion of population below extreme poverty line (%)	Proportion of population below absolute poverty line (%)	Poverty Gap Ratio (%)	Share of poorest 20% in overall consumption (%)
1992	6.6	15	5.3	6.5
2002	4	14.2	3.3	6.9
2006	2.3	13	2.8	7.7
2008	0.75	13.3	2.6	11.2
2015	3.3	-	2.7	10

Source: Department of Statistics (DOS) and World Bank (WB) study "Poverty Update" 2004, 2009

## 2. 貧困の状況－貧困率、貧困ギャップ率の分析

### (1) 貧困率<sup>34</sup>

上述のように、貧困はヨルダン国内に等しく存在するわけではない。ヨルダンでは、貧困率は、都市よりも地方で高く、都市人口の 12%が貧困であるのに対し、地方では貧困人口の割合は 19%となっている<sup>35</sup>。県別に貧困率を確認すると、最も高いマフラク県の貧困率が 22.98%、その後カラク県（21.68%）、タフィーラ県（19.13%）である一方、都市部のアンマン県（9.43%）、マダバ県（9.99%）、イルビド県（12.11%）となっている。

2002 年から 2006 年の間、ヨルダンでは全体として貧困率は改善した。それにもかかわらず、地域間（県別）では必ずしも改善傾向にない県が確認されている。特に、カラク、タフィーラ及びアジュルンの各県では 2002 年から 2006 年で貧困率が悪化していることが確認された<sup>36</sup>。

この期間中、統計的には全体の貧困率は低下したが、市民の感覚的には一般的に貧困は悪化した（もしくは変化がなかった）と受け止められており、統計上の数値と実際の認

<sup>33</sup> MoPIC/UN Jordan (2010), Keeping the Promise and Achieving Aspirations, Second National Millennium Development Goals Report, p. 19.

<sup>34</sup> 以降、絶対的貧困線を表す。

<sup>35</sup> WB/MoPIC (2009), Hashemite Kingdom of Jordan, Poverty Update, (In Two Volumes) Volume I: Main Report, p. 3.

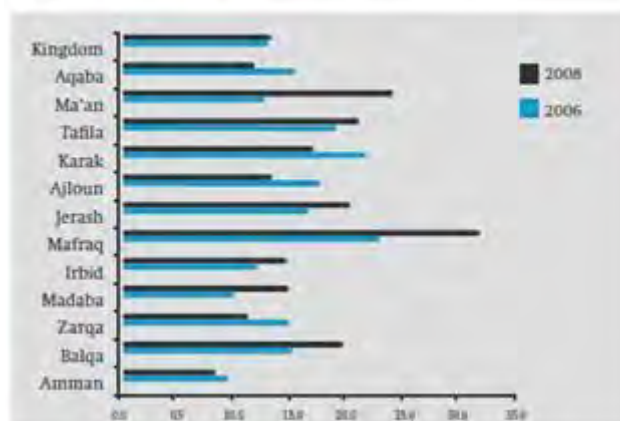
<sup>36</sup> WB/MoPIC (2009), Hashemite Kingdom of Jordan, Poverty Update, (In Two Volumes) Volume I: Main Report, p. 8.

識と間に食い違いがある。この齟齬が見られる背景には、通常、経済学者は支出を用いて貧困を評価する一方で、一般的な人々は収入に基づいて貧困を認識するとの違いから生じたものと考えられる。実際に、図表 9 で示す通り実質支出は伸びたが、実質収入はほとんど停滞していることが明らかとなった。加えて、貧困に対する認識が異なるもう一つの理由として、公式な貧困線が幾分低い水準で設けられたのに対し、一般的な人々が貧困に結びつける所得<sup>37</sup>水準が低所得層のみならず低中所得層までも含んでいることが原因として考えられる<sup>38</sup>。

また 2006 年から 2008 年の 2 年間では、県別貧困率は以下のように推移した。特にマフラク、マアン、バルカ、タフィーラといった人口密度が低い県ほど貧困率が高くなっている。但し、貧困層の大半はアンマンを含む大都市に集中しており、これは経済活動と人口が都市部に集中していることによる<sup>39</sup>。

図表 7 県別貧困率の推移 (2006-2008) <sup>40</sup>

Figure (1-2): Poverty rates for 2006 and 2008



<sup>37</sup> ここでいう所得とは、労働所得、不動産所得、移転所得（社会支援プログラムを通じた政府による現金給付、年金、海外からの送金）等を含む。(WB/MoPIC (2009), Hashemite Kingdom of Jordan, Poverty Update, (In Two Volumes) Volume I: Main Report, pp. 15-21 参照。

<sup>38</sup> WB/MoPIC (2009), Hashemite Kingdom of Jordan, Poverty Update, (In Two Volumes) Volume I: Main Report, p. iii.

<sup>39</sup> MoPIC/UN Jordan (2010), Keeping the Promise and Achieving Aspirations, Second National Millennium Development Goals Report, p. 20.

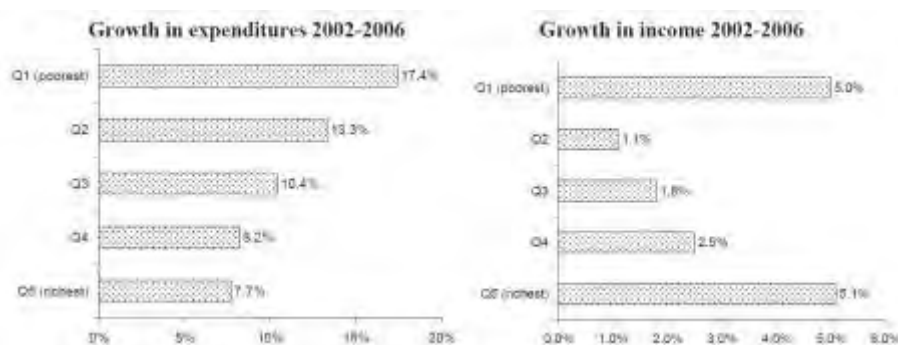
<sup>40</sup> MoPIC/UN Jordan (2010), Keeping the Promise and Achieving Aspirations, Second National Millennium Development Goals Report, p. 20.

図表 8 貧困率・貧困ギャップ率・二乗貧困率（2006年）（再掲）

Table I.15. Incidence of poverty in Jordan 2006

Governorate	Actual estimates			Ranking		
	% of poor	Gap ratio	Severity ratio	% of poor	Gap ratio	Severity ratio
Amman	9.43	1.83	0.56	1	1	1
Balqa	13.28	3.50	1.17	6	6	6
Zarqa	14.87	2.80	0.83	5	4	3
Madaba	9.99	2.39	0.79	2	2	2
Irbid	12.11	2.71	0.93	3	3	4
Mniraq	22.98	5.96	2.50	12	12	12
Jarash	16.65	4.05	1.36	8	9	9
Ajlun	17.67	4.00	1.35	9	8	8
Karak	21.68	4.99	1.54	11	11	10
Tafela	19.13	3.97	1.21	10	7	7
Maan	12.71	2.90	1.02	4	5	5
Aqaba	15.46	4.56	1.74	7	10	11
Jordan	12.99	2.80	0.93	6.5	6.5	6.5

図表 9 支出及び収入の伸び率（2002-2006年）<sup>41</sup>



### (1) 貧困ギャップ率・二乗貧困ギャップ率

貧困ギャップ率(depth)<sup>42</sup>は、貧困線以下で生活する人々の平均支出・所得の貧困線からの乖離を表したもので、貧困の深度を表すものである。貧困ギャップ率は、1992年に5.3、2002年に3.3、2006年に2.8、2008年に2.6と、年々改善しており、16年間でほぼ半減している（上記図表6参照）<sup>43</sup>。

ヨルダン政府統計によれば、ヨルダンでは多くの人々の所得水準が貧困線付近に密集している。図表10は、人口の大半の消費水準が貧困線の僅かに上回る水準であり、これは

<sup>41</sup> MoPIC/UN Jordan (2010), Keeping the Promise and Achieving Aspirations, Second National Millennium Development Goals Report, p. 20.

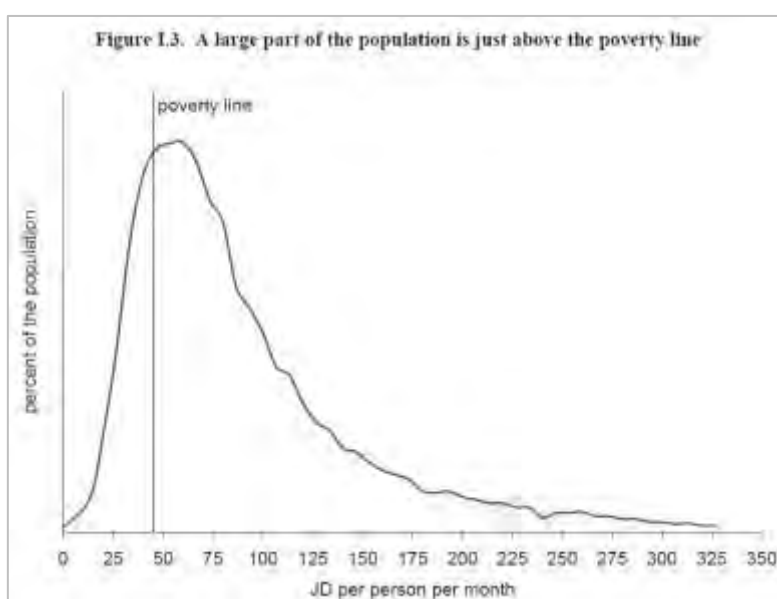
<sup>42</sup> 貧困ギャップ率は貧困線以下の人々の支出（所得）の不足額を足し合わせた平均であり、貧困線からの乖離率（深さ）として表される。同指標は、貧困層に完全に対象を絞った現金給付を通じて、貧困削減のために必要とされる一人あたりの金額を算出する（貧困層が必要とする、貧困線からの不足額を埋め合わせる対策に役立つ）ために用いられることが多い（WB/MoPIC (2009), Hashemite Kingdom of Jordan, Poverty Update, (In Two Volumes) Volume II: Appendices, p. 17. 等参照）。

<sup>43</sup> MoPIC/UN Jordan (2010), Keeping the Promise and Achieving Aspirations, Second National Millennium Development Goals Report, p. 20.

人々の生活は決して安定しておらず、軽微な問題でも多くの人々が貧困に陥りやすいことを示している。

貧困ギャップ率は、貧困率と同様県毎に異なっている。貧困ギャップ率の県別順位は、貧困率の順位とほぼ一致する（これは、貧困ラインからの乖離率を二乗することで、より貧しい人の状況を大きく反映させようとする二乗貧困ギャップ率(severity)<sup>44</sup>の順位についてもほぼ同じ傾向である）。このことは、貧困削減に関する政策の策定に関し、貧困率の高い県に対し貧困対策プログラムを実施することが最も貧しい貧困層への到達にも貢献する可能性があることを意味している<sup>45</sup>。

図表 10 貧困線と所得分布<sup>46</sup> (2006 年)



### 3. 格差の分析—ジニ係数・所得階層の分析

図表 11 に示す通り、格差や不平等を示すジニ係数<sup>47</sup>は、2002 年から 2006 年の間に

<sup>44</sup> 二乗貧困ギャップ率は貧困層の支出（所得）の不足分（貧困ラインからの乖離率）を 2 乗したもので、貧困層の間の格差（深刻度）を考慮する際に用いられる。二乗貧困ギャップ率は支出が不足する貧困層ほどより多くの加重が与えられるため、より貧しい人々の生活水準の変化に反映されやすい。(WB/MoPIC (2009), Hashemite Kingdom of Jordan, Poverty Update, (In Two Volumes) Volume II: Appendices, p. 17. 等参照。)

<sup>45</sup> WB/MoPIC (2009), Hashemite Kingdom of Jordan, Poverty Update, (In Two Volumes) Volume I: Main Report, pp. 4-5.

<sup>46</sup> WB/MoPIC (2009), Hashemite Kingdom of Jordan, Poverty Update, (In Two Volumes) Volume I: Main Report, p. 5.

<sup>47</sup> ジニ係数は、0-1 の間の指数として表され、0 は完全な平等、1 は完全な不平等（ある経済において 1 人が全ての所得を保有している状態）を指す。一般的にジニ係数が 0.4 を超えると、格差が大きくなり社会不安定化の警戒ラインとされる。なお、本稿出典先では、ジニ係数に 100 を乗じた値として示されている。<http://web.worldbank.org/WBSITE/EXTERNAL/TOPICS/EXTPOVERTY/EXTPA/0,,contentMDK:20238991~menuPK:492138~pagePK:148956~piPK:216618~theSitePK:430367,00.html> 等参照 (2012 年 2 月 6 日アクセス)



38.81 から 39.56 と上昇し、貧困格差が広がっている。所得階層別の内訳を見てみると、最下層の 20%（第 1 五分位）が占める所得の割合は 6.5%から 6.6%と僅かではあるが、この期間に上昇し、最上層の 20%（第 5 五分位）の割合も 46.0%から 46.6%と上昇した<sup>48</sup>。ジニ係数の上昇は、主に最上層と最下層が所得の割合を伸ばし、第 2 から第 4 五分位に属する中間層の所得の割合が低下したことによって主に説明される。よって、中間層は、生活水準の相対的な下落に悩まされたことになる。中でも第 2 五分位の人々の所得割合が最も大きく下落した<sup>49</sup>。

図表 11 ジニ係数及び所得分布（2002 年と 2006 年の比較）<sup>50</sup>

	2002	2006	Growth rate
Gini index	38.81	39.56	1.94
Quintile shares			
Quintile 1	6.5	6.6	1.58
Quintile 2	11.0	10.7	-2.40
Quintile 3	15.1	14.8	-1.73
quintile 4	21.5	21.3	-1.12
quintile 5	46.0	46.6	1.48
Total	100.0	100.0	0.00

<sup>48</sup> 引用元は 2002 年の数字を基準にその元の数字を 100%とした場合、何%の変化があったかで表現されている。ただし、誤解を防ぐために、この引用では、変化率の細かい数字は削除した。

<sup>49</sup> WB/MoPIC (2009) , Hashemite Kingdom of Jordan, Poverty Update, (In Two Volumes) Volume II: Appendices, p. 44.

<sup>50</sup> WB/MoPIC (2009) , Hashemite Kingdom of Jordan, Poverty Update, (In Two Volumes) Volume II: Appendices, p. 44.

## IV. 所得貧困以外による分析

### 1. HDI の概況とトレンド・国際及び地域比較

ヨルダンは、2011年の人間開発指数（HDI）で187か国中95位（0.698）に位置し（94位チュニジア、96位アルジェリア）、人間開発中位国に分類される。1980年から2011年にかけて、ヨルダンのHDIは、0.541から0.698と29ポイント上昇した。ヨルダンのHDI指標の評価は、同国の出生時平均寿命、平均就学年数、5歳児の生涯教育期間を示した期待教育年数及び1人あたりのGNIの改善を示したものとなっている<sup>51</sup>。1980年から2011年の間、ヨルダンの出生時の平均寿命は6.4年、平均就学年数は5.6年、5歳児の生涯教育期間を示した期待教育年数は1.1年上昇し、1人あたりGNIは33%増加した<sup>52</sup>。また、特に飲料水や衛生サービスへのアクセスの改善、義務教育への投資（予算措置）がHDI指標の改善に貢献している<sup>53</sup>。

図表 12 HDI 及び HDI 構成要素指数の推移（1980-2011 年）（再掲）

**Table A: Jordan's HDI trends based on consistent time series data, new component indicators and new methodology**

	Life expectancy at birth	Expected years of schooling	Means years of schooling	GNI per capita (2005 PPP\$)	HDI value
1980	67.0	12.0	3.1	3,980	0.541
1985	69.0	12.4	4.0	4,116	0.577
1990	70.4	12.2	5.1	3,121	0.591
1995	71.4	12.2	6.4	3,371	0.623
2000	72.0	12.5	7.3	3,640	0.646
2005	72.6	12.8	8.0	4,450	0.673
2010	73.3	13.1	8.6	5,251	0.697
2011	73.4	13.1	8.6	5,300	0.698

地域比較では、ヨルダンのHDIは、人間開発中位国の平均値（0.630）及びアラブ諸国の平均値（0.641）を僅かに上回る水準にある。ヨルダンの1人あたり名目GDP（4,560米ドル）に近いアラブ諸国には、アルジェリア（4,495米ドル）やチュニジア（4,199米ドル）が挙げられるが、HDIはともに0.698とヨルダンと同水準である<sup>54</sup>。

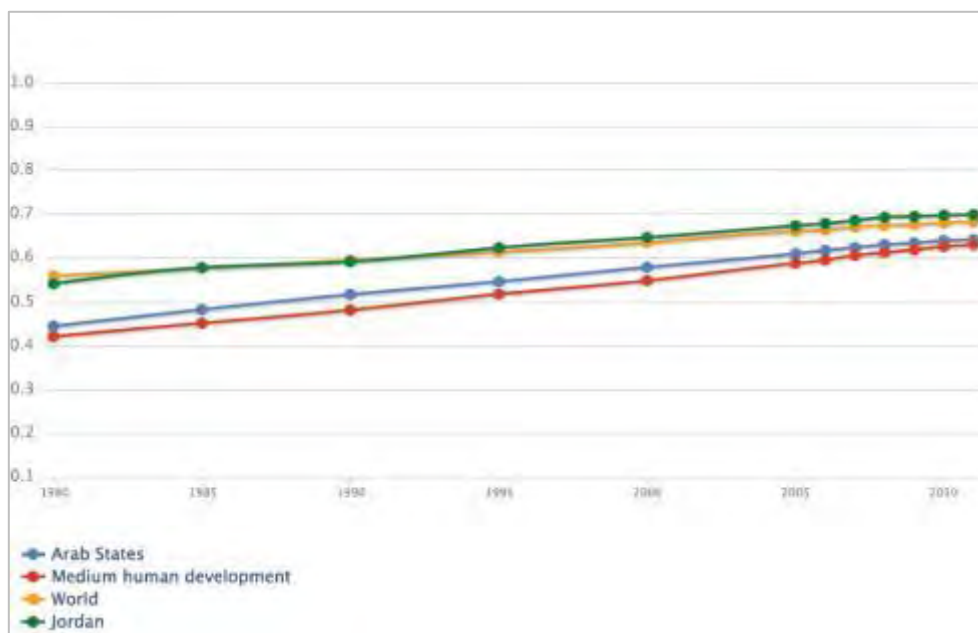
<sup>51</sup> UNDP (2007), Assessment of Development Result, Jordan, Evaluation of UNDP Contribution, p.9. アラブ諸国20か国中、ヨルダンは2011年に保健指標で9番目、教育指数で4番目、所得指数で11番目の水準にある（人間開発指標ウェブサイト <http://hdr.undp.org/en/data/trends/> 参照）。

<sup>52</sup> UNDP (2011), Human Development Report 2011, Sustainability and Equity: A Better Future for All, Explanatory note on 2011 HDR composite indices, p. 2.

<sup>53</sup> UNDP (2007), Assessment of Development Results, Jordan, Evaluation of UNDP Contribution, p. 9.

<sup>54</sup> World Development Indicators から、2010年の1人あたり名目GDPを元に比較。

図表 13 ヨルダン及び周辺諸国等との HDI 指数比較 (1980-2011 年) <sup>55</sup>



図表 14 ヨルダン及び周辺諸国等との HDI 指数比較 (2011 年) <sup>56</sup>

Table B: Jordan's HDI indicators for 2011 relative to selected countries and groups

	HDI value	HDI rank	Life expectancy at birth	Expected years of schooling	Mean years of schooling	GNI per capita (PPP US\$)
Jordan	0.698	95	73.4	13.1	8.6	5,300
Kuwait	0.760	63	74.6	12.3	6.1	47,926
Libyan Arab Jamahiriya	0.760	64	74.8	16.6	7.3	12,637
Arab States	0.641	—	70.5	10.2	5.9	8,554
Medium HDI	0.630	—	69.7	11.2	6.3	5,276

## 2. 不平等調整済み HDI (IHDI) <sup>57</sup>

2010 年 HDR は、長年使用してきた人間開発指数 (HDI) を補完するため、新たに不平等調整済み人間開発指数 (IHDI) を設けた。これは不平等の度合いに応じて出生時平均寿命、教育、所得の平均値を調整することで HDI 全ての指数における不平等を考慮したものとして採用された。つまり HDI は名目的な人間開発指数とされているのに対して、IHDI は実質的な人間開発指数と見なされる指標である。不平等からくる潜在的な人間開発の損失は、HDI 及び IHDI の差異によって与えられる<sup>58</sup>。ヨルダンの HDI は、0.698 であったが、

<sup>55</sup> <http://hdrstats.undp.org/en/countries/profiles/JOR.html> 参照 (2012 年 2 月 3 日アクセス)。

<sup>56</sup> UNDP (2011), Human Development Report 2011, Sustainability and Equity: A Better Future for All, Explanatory note on 2011 HDR composite indices, p. 3.

<sup>57</sup> UNDP (2011), Human Development Report 2011, Sustainability and Equity: A Better Future for All, Explanatory note on 2011 HDR composite indices, p. 3.

<sup>58</sup> IHDI は HDI の構成要素として用いられる保健、教育、所得の指標を元に、各指標に反映されない不平等を調整したものである。IHDI は社会の中で不均衡が存在しない場合に HDI と等しくなり、不平等の度合い

不平等の要素が調整されると、IHDHIは0.565と、13.1ポイントの損失が発生した。図表15はヨルダンと周辺国とのIHDHIの数値を比較したものである。HDI中位国（Medium HDI）における損失は23.7ポイント、アラブ諸国における損失は26.4ポイントであったことから、ヨルダンにおいては実質的な人間開発指数は従来の値と比べて低下したものの、地域・国際比較における不均衡の度合いは相対的に小さかった。

図表 15 ヨルダンと周辺諸国等とのIHDHI比較（2011年）<sup>59</sup>

Table C: Jordan's IHDHI for 2011 relative to selected groups

	IHDHI value	Overall Loss (%)	Loss due to inequality in life expectancy at birth (%)	Loss due to inequality in education (%)	Loss due to inequality in income (%)
Jordan	0.565	19.0	13.1	22.4	21.1
Arab States	0.472	26.4	18.0	40.8	17.8
Medium HDI	0.480	23.7	19.2	29.4	22.3

### 3. MDG 指標の分析<sup>60</sup>

過去10年間、ヨルダンは上述の国家アジェンダ等の社会、経済、教育、環境に関する複数の政策・戦略を採択し、それらは包括的でミレニアム開発目標（MDG）と調和の取れたものであった。これらの政策・戦略は、貧困削減、全ての人々に対する教育機会の提供、女性に対するあらゆる形の差別撤廃、母子保健の改善、持続可能な環境開発、開発のための活発なパートナーシップの促進に関する特定の開発目標達成に向けた行政プログラムに反映されている。

現時点では、これまでの傾向及び進捗を踏まえ、主に以下の点が評価されている。

- MDG 達成に向けた全体的な進捗は満足できるものであり、ヨルダンは多くの目標を達成した（ないし達成途上にある）。
- 2015年までの一部のMDG目標の達成はある。特に、Goal 2（初等教育の完全普及の達成）は達成され、Goal 5（妊産婦の健康の改善）及び6（HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止）についても2015年までに達成しうる。更に、決断力があり、対象を絞った政策及び政治的意思をもってすれば、Goal 1（極度の貧困と飢餓の撲滅）、3（ジェンダー平等推進と女性の地位向上）、4（乳幼児死亡率の削減）、7（環境の持続可能性確保）は達成可能な範囲内にある。

が高くなるほどHDIよりも少なくなる。HDIは国レベルの総計をベースとした指標を用いているのに対し、IHDHIでは、例えば所得に関し1人あたり可処分所得・消費等のデータを用いて不平等の度合いを推定している。但し、IHDHIの対象である殆どの国は、全てのデータを単一の調査結果に依拠することができないため、複数のデータから得られる不平等に重複が生じる点で限界がある。

[http://hdr.undp.org/en/media/HDR\\_2011\\_EN\\_TechNotes.pdf](http://hdr.undp.org/en/media/HDR_2011_EN_TechNotes.pdf) および <http://hdr.undp.org/en/statistics/iimdi/> を参照（2012年2月6日アクセス）。

<sup>59</sup> UNDP (2011), Human Development Report 2011, Sustainability and Equity: A Better Future for All, Explanatory note on 2011 HDR composite indices, p. 4.

<sup>60</sup> MoPIC/UN Jordan (2010), Keeping the Promise and Achieving Aspirations, Second National Millennium Development Goals Report, pp. 9-10.

- MDG 目標に向けた進捗のペース及び度合いは、各目標によって異なっている。また個別の目標においても各指標の進捗は異なる。これまでの傾向から明らかであるように、MDG 採択当初の進捗は早かったが、次第にそのスピードは減速し、一部の目標では近年大きな進捗が確認されていない。
- 教育のように直接的な効果、対象となるグループに対する幅広い適用、持続可能な財源を持った行政プログラムに組み込まれた目標に対する進捗は顕著である。
- 対照的に、完全雇用、環境のように構造対策、政策間の調和、財源の継続・維持を必要とする目標に対する進捗度合いはあまり望ましくない。
- 地域ごとの開発度合いが異なるため、各 MDG 目標に対する進捗度合いも地域によって異なる。
- 特定の MDG 目標が達成済みなし達成途上であるにもかかわらず、世界的な金融・経済危機及び同危機の開発への影響に鑑み、課題は残されている。経済成長の減速、公的債務負担の増加、政府収入の減少、高い失業率等の理由によって、同危機が MDG 達成に向けたこれまでの傾向を一変させる可能性も残されている。

図表 16 MDG 達成に向けた進捗（2010 年時点）<sup>61</sup>

Progress made and its trends:

Goal	Progress Achieved
Eradicate Extreme Poverty and Hunger	Achievable if certain measures are taken
Achieve Universal Basic Education	Achieved
Promote Gender Equality and Empower Women	Achievable if certain measures are taken
Reduce Child Mortality	Achievable if certain measures are taken
Improve Maternal Health	On track
Combat Human Immunodeficiency Virus/Acquired Immuno-Deficiency Syndrome (HIV/AIDS), Malaria and Other Diseases	On track
Ensure Environmental Sustainability	Achievable if certain measures are taken
Develop a global partnership for development	Achievable if certain measures are taken

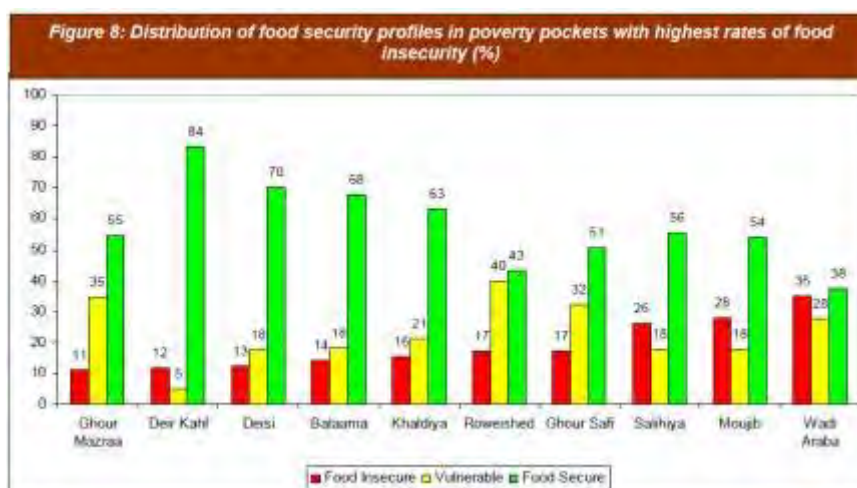
#### 4. 食糧安全保障・脆弱性による分析

WFP は、世界的に食糧価格が高騰した 2008 年に食糧価格調査（High Food Price increase survey）を実施し、特定の貧困地域（pockets of poverty）における食糧安全保障の観点から家計レベルにおける食糧価格高騰の影響を評価した。これは食糧不安（food

<sup>61</sup> MoPIC/UN Jordan (2010), Keeping the Promise and Achieving Aspirations, Second National Millennium Development Goals Report, p. 10.

insecurity) に陥っている最も脆弱な地域を特定することを目的としたものである<sup>62</sup>。同調査は、計画・国際協力省 (MoPIC) によって貧困地域と特定された 20 の小地区 (sub-district) において各世帯に実施されたアンケート調査を元に分析が行われた<sup>63</sup>。同調査から明らかとなった点としては、地理的観点から、ワディ・アラバ (Wadi Araba)、ムジブ (Moujib)、サーリヒーヤ (Salihya)、グール・サフィ (Ghour Safi)、ルウェイシド (Roweished)、ハリディーヤ (Khalidiya)、バラーマ (Balaama)、デイシ (Deisi)、デール・カフ (Deir Kahf)、グール・マルズラア (Ghour Marzraa) において食糧不安の割合が高い結果となり (図表 17 及び 地図 3 参照)、南部及び北東部に分布していることが分かる。一部の地域は、特に深刻な食糧不安にあることが判明しており、食糧・非食糧援助、長期的な支援、能力向上の観点から直接的な関与が必要とされている<sup>64</sup>。また、都市と地方の関係では、地方における食糧不安の割合は、都市よりも 2 倍以上であり、食糧不安に陥っている約 70% の人々は地方に住んでいる<sup>65</sup>。

図表 17 貧困地域における食糧安全保障 (2008 年) <sup>66</sup>



<sup>62</sup> WFP/JAAH (2010), Jordan Food Security Survey in the Poverty Pockets, p. 4.

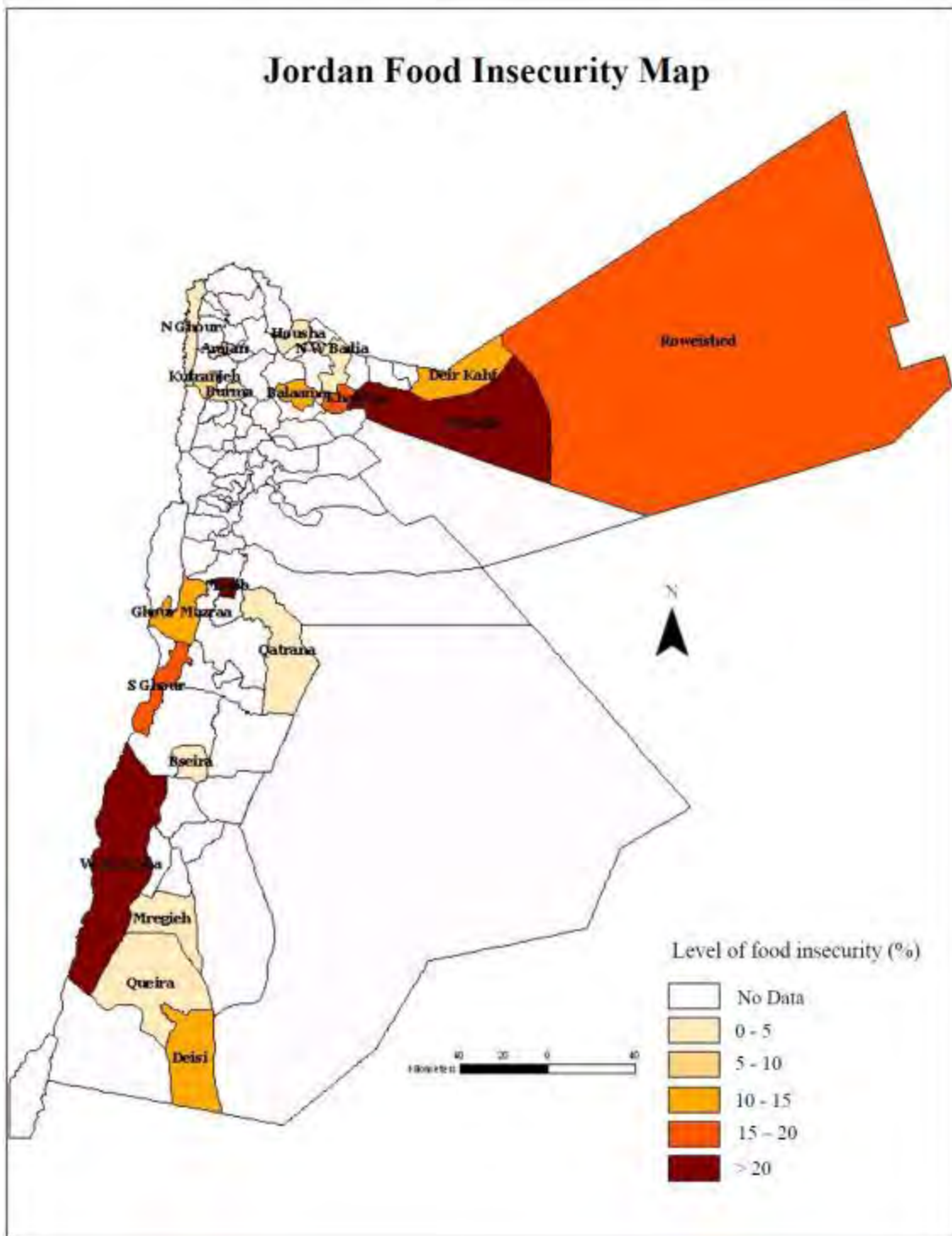
<sup>63</sup> WFP/JAAH (2010), Jordan Food Security Survey in the Poverty Pockets, p. 8.

<sup>64</sup> WFP/JAAH (2010), Jordan Food Security Survey in the Poverty Pockets, p. 26.

<sup>65</sup> WFP/JAAH (2010), Jordan Food Security Survey in the Poverty Pockets, p. 28.

<sup>66</sup> WFP/JAAH (2010), Jordan Food Security Survey in the Poverty Pockets, p. 26.

地図 3 食糧不安にある地域分布（2008 年）<sup>67</sup>

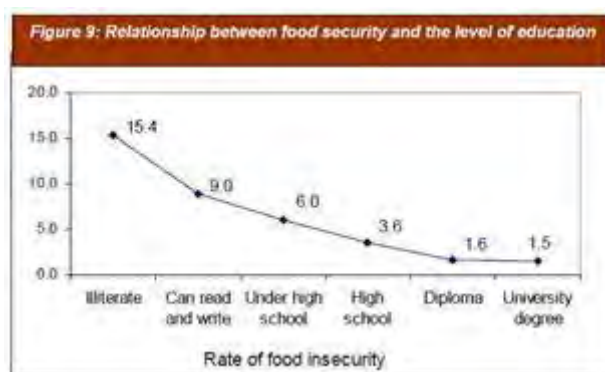


非識字者の世帯主を抱える世帯が食糧不安に陥る割合は 15.4%であるのに対し、大学卒業の学位を有す世帯主の場合は同割合が 1.5%に減少する。このことから、食糧安全保障

<sup>67</sup> WFP/JAAH (2010), Jordan Food Security Survey in the Poverty Pockets, p. 45.

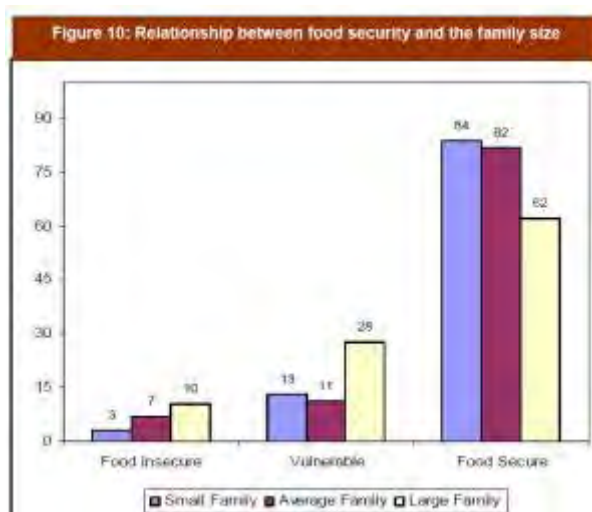
と教育水準の間に強い相関関係が見られたと同時に食糧不安の発生率が高い地域においては非識字率も高いことが読み取れる<sup>68</sup>。

図表 18 食糧安全保障と教育水準の相関（2008 年）<sup>69</sup>



また、食糧保障安全水準と世帯規模の間には強い相関関係がある。つまり、大規模世帯の間で食糧不安に陥る割合は、小規模の世帯と比べると非常に高い数字となっている。図表 19 が示す通り、6 人以上の構成員を抱える世帯の 10%は、食糧不安に陥っているが、4-6 人からなる世帯は 7%、1-3 人からなる世帯は 3%と、世帯の構成員数に比例して食糧不安の度合いが高まることを裏付けている<sup>70</sup>。

図表 19 食糧安全保障と世帯規模の相関（2008 年）<sup>71</sup>



<sup>68</sup> WFP/JAAH (2010), Jordan Food Security Survey in the Poverty Pockets, p. 27.

<sup>69</sup> WFP/JAAH (2010), Jordan Food Security Survey in the Poverty Pockets, p. 26.

<sup>70</sup> WFP/JAAH (2010), Jordan Food Security Survey in the Poverty Pockets, p. 27.

<sup>71</sup> WFP/JAAH (2010), Jordan Food Security Survey in the Poverty Pockets, p. 28.



## V. 社会的属性・特性と貧困との関連の分析

### 1. 海外からの送金と貧困

海外で出稼ぎを行うヨルダン人による本国への送金は、同国にとって重要な外貨獲得源であり、国際収支の改善に貢献する等、国内需要や経済成長の促進につながる消費や投資を支える役割を果たしている。2008年の在外ヨルダン人による送金額は、2005年と比べて45%増加し、2008年のGDPの13.9%を占めた。ヨルダン経済に対する外部要因としての世界金融危機の深刻な影響にもかかわらず、2009年のヨルダン人による送金額は対前年比で1.3%の減少にとどまっている<sup>72</sup>。

しかし、マクロレベルにおける重要性にもかかわらず、送金は主に富裕層によって受け取られる傾向にある。2006年に最上層の20%（第5五分位）が所得の5%を送金から得ている一方、最下層（第1五分位）にとって、送金は所得の1%を占めるに過ぎない。そのため、2002年から2006年にかけて、第4五分位（upper middle class）の人々を除いて在外ヨルダン人による送金額を受け取る額は減少したが、貧困層にとって送金が収入に占める割合は僅かであるため、送金額の減少が貧困層に与える影響は殆どなかった<sup>73</sup>。

図表 20 ヨルダン送金額（対GDP比）推移（2003-2009年）<sup>74</sup>

Table (8-1): Development in some economic indicators

	2003	2005	2008	2009
Economic growth rate at fixed prices (%)	-4.2	8.1	7.6	2.3
National exports growth rate (%)	7.6	11.4	39.2	19.4
FDI growth rate (%)	129.6	111.8	2.9	-14.3
Remittances to GDP ratio (%)	19.4	17.3	13.9	12.4
Remittances-to-national exports ratio (%)	85.2	60.1	50.6	61.8

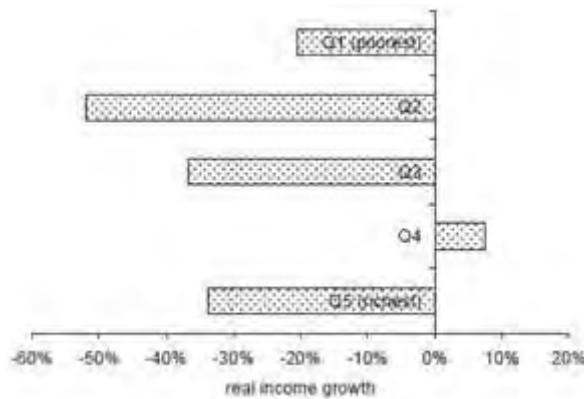
Source: Central Bank of Jordan (CBJ), and the Ministry of Finance

<sup>72</sup> MoPIC/UN Jordan (2010), Keeping the Promise and Achieving Aspirations, Second National Millennium Development Goals Report, p. 99. 送金額が微減となった理由については、湾岸諸国で働くヨルダン人労働者が経済危機の影響を受け難いセクターで勤務していたため、ヨルダン人労働者が職を失い大量帰還することがなかったためであるとされる。

<sup>73</sup> WB/MoPIC (2009), Hashemite Kingdom of Jordan, Poverty Update, (In Two Volumes) Volume I: Main Report, p. 19.

<sup>74</sup> MoPIC/UN Jordan (2010), Keeping the Promise and Achieving Aspirations, Second National Millennium Development Goals Report, p. 99.

図表 21 所得に含まれる送金額の伸び率（階層別）（2002-2006 年）<sup>75</sup>



## 2. パレスチナ難民と貧困

ヨルダンには、UNRWA が活動を行う 5 つの国・地域<sup>76</sup>の中で最も多くのパレスチナ難民を受け入れている。ヨルダンに住む約 200 万人<sup>77</sup>の UNRWA に登録されたパレスチナ難民は、近東 (Near East) 地域<sup>78</sup>における全パレスチナ難民の 42%を占め、そのうち 18%は 10 ある公式難民キャンプに暮らしており、残りは 3 つの非公式難民キャンプ、都市部や地方のその他の地域で生活している。

ヨルダンに住むパレスチナ難民は、居住地域にかかわらず似たような社会・経済状況にある。パレスチナ難民の 49%は 24 歳以下と多くの若年層から構成されている。ヨルダンのパレスチナ難民は、1954 年のヨルダン国籍法により国籍を付与されており、またヨルダン政府が行政管轄機関としてヨルダン人と同様に社会サービスを提供しており、既にヨルダン社会に統合されている。こうした利点から他の受入国で生活するパレスチナ難民と比べて人間開発及び貧困削減に対し明るい見通しが立てられている<sup>79</sup>。但し 1967 年以降ガザから避難してきた 13 万人以上とされるパレスチナ難民に対して国籍法は適応されておらず、こうした人々は限られた権利しかもたず、他のパレスチナ難民よりも脆弱な立場にある<sup>80</sup>。

十分ではないが、入手可能なデータによると、相当数の貧しいパレスチナ難民は政府の直接支援を受けておらず、パレスチナ難民の 2.4%のみがセーフティーネット・プログラムに加入している<sup>81</sup>。正確なデータが不足する中、UNRWA は、ヨルダンにおけるパレスチナ難民の貧困率に関し、ヨルダン国内の貧困率 (13%) に等しい水準と推定している<sup>82</sup>。

<sup>75</sup> WB/MoPIC (2009), Hashemite Kingdom of Jordan, Poverty Update (In Two Volumes) Volume I: Main Report, p. 20.

<sup>76</sup> ヨルダン、レバノン、シリア、西岸地区、ガザ地区の 5 つを指す。

<sup>77</sup> <http://www.unrwa.org/userfiles/2011120434013.pdf> より (2012 年 2 月 6 日アクセス)

<sup>78</sup> バルカン諸国、トルコ、シリア、レバノン、イスラエル、エジプト等を指す。

<sup>79</sup> UNRWA (2010), UNRWA Medium Term Strategy 2010 – 2015, p. 41.

<sup>80</sup> UNRWA (2010), UNRWA Medium Term Strategy 2010 – 2015, p. 41.

<sup>81</sup> UNRWA (2010), UNRWA Medium Term Strategy 2010 – 2015, p. 33.

<sup>82</sup> UNRWA (2010), UNRWA Medium Term Strategy 2010 – 2015, p. 32.

### 3. ヨルダン在住イラク人と貧困<sup>83</sup>

家計収入支出調査によると、2006年のヨルダン在住イラク人口は25,440人であり<sup>84</sup>、世代別では25-29歳が人口全体の42.4%と、最も多い割合を占めた。イラク人はヨルダン人よりも教育水準が高く、高等教育を受けた割合はヨルダン人の18.5%に対しイラク人は44.2%である。しかし、イラク人のうち職に就いている割合は20%にとどまり、残りの80%は失業もしくは非労働力状態である。イラク人は、高い教育水準の割にヨルダンの労働市場に受け入れられているとは言えず、イラク人の失業率はヨルダン全体の22.2%に対し38.8%と高い水準にある。

他方でイラク人は教育水準の高さから労働者1人あたりの年間給与がJD8,039と、ヨルダン人のJD3,246の2倍以上ある。また、世帯別で見たイラク人1人あたり年間所得についてもJD2,626と、ヨルダン人のJD1,093の2倍以上ある。これは、イラク人は主に海外からの送金によって、ヨルダン人の4倍以上の移転所得を得ていることが影響しており、その結果、イラク人の貧困率はヨルダンの13%に対し1.5%と低い水準にある。

図表 22 ヨルダン在住イラク人およびヨルダン人の教育水準比較 (2006年)<sup>85</sup>

Education levels	Iraqis	Total pop
Less than basic education	27.7	40.8
Basic education	12.7	22.5
Vocational	0.0	0.7
Secondary	15.4	17.5
Tertiary	44.2	18.5
Total population	100.0	100.0

<sup>83</sup> WB/MoPIC (2009), Hashemite Kingdom of Jordan, Poverty Update, (In Two Volumes) Volume II: Appendices, pp. 26-28.

<sup>84</sup> 2003年のイラク戦争開始後、国内外の安全な場所を求めて国内外へ避難した多くのイラク難民が発生し、2009年までに少なくとも100万人以上がヨルダンを含むシリア、湾岸諸国等近隣諸国に退避した。(WB (2010), Confronting Poverty in Iraq, p. 29, 31.) 現在、ヨルダン政府は45万人のイラク人がヨルダン国内にいと推定しているが、数値に関し不確かな部分も残る。このため、UNHCRは難民登録された32,000人をイラク難民として扱っている。UNHCRウェブサイト参照

(<http://www.unhcr.org/pages/49e486566.html#JORAM>) (2012年2月6日アクセス)。以上を踏まえ、留意点として、Poverty Updateではイラク難民に関する言及はなく、且つ2006年時点の人口データがイラク難民をどの程度反映しているか明らかではない。したがって、本項ではイラク難民ではなく、ヨルダン在住イラク人として扱った。

<sup>85</sup> WB/MoPIC (2009), Hashemite Kingdom of Jordan, Poverty Update, (In Two Volumes) Volume II: Appendices, p. 26.

図表 23 イラク難民貧困率 (2006 年)<sup>86</sup>

Poverty among Iraqi households

Table I.35. Poverty among Iraqis: 2006

	Iraqis	Total pop
Per capita real expenditure	631	316
Percentage of poor	1.5	12.99
Poverty gap ratio	0.5	2.80
Severity of poverty	0.1	0.93

#### 4. パレスチナ難民以外のグループと貧困

ヨルダンで最も排斥されているグループはローマとジプシーと呼ばれる移動労働者の人々である。正確な規模は分からないが、凡そ数千から 2 万人規模でヨルダン国内にいると推定されている。首都アンマンの道路わきで居座り、アクセサリーの販売に従事し生計を立てる人々や物乞いをするグループもいれば、収穫期にはイルビドのような街に集まる人々、また冬季には南部で移動し生活する人々などがある。これら人々に対する基礎サービス（保健、教育等）は把握されていない<sup>87</sup>。

また未熟練労働者の移民も困難な経済的、社会的地位におかれている。これら未熟連工は2004年の国勢調査で19万人いると推測されている。その内97%の平均月収はJD100(140米ドル)と最低限の生活を維持できる程度の収入となっている<sup>88</sup>。

#### 5. 貧困の地域分布

ヨルダンの人口は首都であるアンマンが位置するアンマン県に集中し、ヨルダン総人口の 61%はアンマン及び周辺のバルカ、ザルカに居住している。極度の都市集中人口分布の形態を示しており、ヨルダンの全人口の 82.3%は都市部に集中している<sup>89</sup>。その為、都市部の貧困率は低いものの実際には貧困線以下で暮らす人々の 70%は都市部で生活している。地図 4 で示す通り、全貧困人口の 28%はアンマン、17%はザルカ、17%はイルビド、8%がマフラク、8%がバラカに居住している。また、図表 24 で示す通り県別の貧困率(2006年)では、最も多い貧困層を抱える 3 県(アンマン、イルビド、ザルカ)は、いずれも低い貧困率にとどまっている。

この為、各県の貧困分布と貧困率の相違を明らかにすることは、ヨルダンでの貧困対

<sup>86</sup> WB/MoPIC (2009), Hashemite Kingdom of Jordan, Poverty Update, (In Two Volumes) Volume II: Appendices, p. 28.

<sup>87</sup> UN(2006), Common Country Assessment Jordan p10

<sup>88</sup> UN(2006), Common Country Assessment Jordan p10

<sup>89</sup> 在ヨルダン大使館 (2006)「ヨルダンの概要」

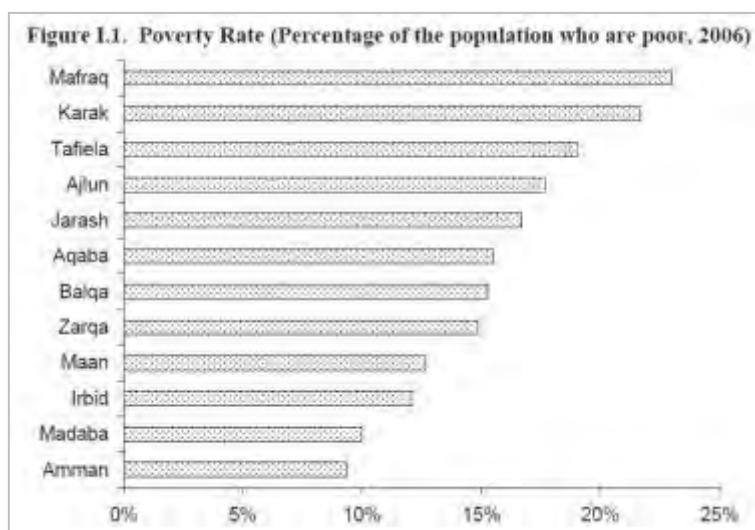
[http://www.jordan.emb-japan.go.jp/jp\\_page/jo/jp\\_jordan02.htm](http://www.jordan.emb-japan.go.jp/jp_page/jo/jp_jordan02.htm) (2012年2月6日アクセス)

策等の立案及び実施の際に、その裨益対象者を絞る上で重要である<sup>90</sup>。

地方部に住むヨルダン人の割合は 2 割ほどであるが、地方人口の 19%が貧困層に分類されている。

地方の貧困層は、生計戦略としての農業や家畜に依存してきたが、旱魃等の影響を受けた地下水等の過剰な取水によって土壌の肥沃度や家畜の繁殖性が低下した結果、生計戦略としての農業や家畜を徐々に放棄しつつある<sup>91</sup>。

図表 24 2006 年貧困率（県別）<sup>92</sup>

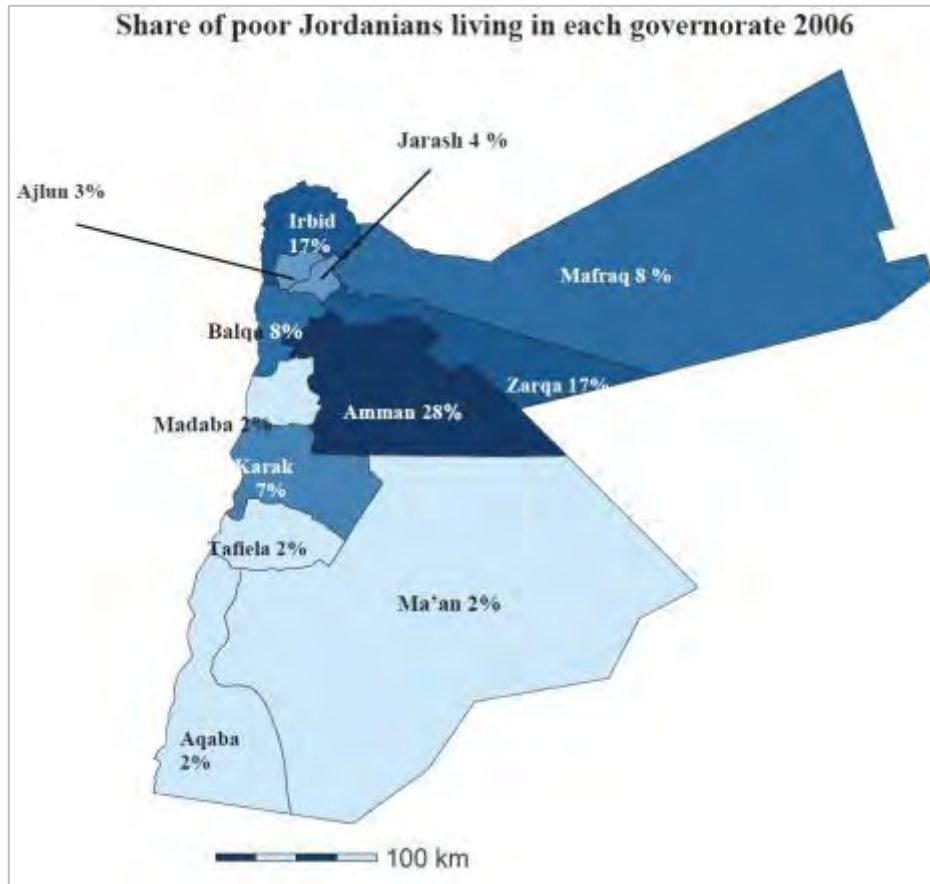


<sup>90</sup> WB/MoPIC (2009), Hashemite Kingdom of Jordan, Poverty Update, (In Two Volumes) Volume I: Main Report, pp. 3-4.

<sup>91</sup> MoPIC/UNDP Jordan/JOHUD (2004), Jordan Human Development Report 2004, Building sustainable livelihoods, p. 2.

<sup>92</sup> WB/MoPIC (2009), Hashemite Kingdom of Jordan, Poverty Update, (In Two Volumes) Volume I: Main Report, p. 3.

地圖 4 縣別貧困層分布 (2006 年)<sup>93</sup>



<sup>93</sup> WB/MoPIC (2009) , Hashemite Kingdom of Jordan, Poverty Update, (In Two Volumes) Volume I: Main Report, p. ii.

図表 25 都市と地方の貧困率（2006 年）<sup>94</sup>

Governorate	Urban	Rural	Whole Kingdom
Amman	9.2	14.1	9.4
Balqa	14.5	17.3	15.3
Zarqa	15.0	12.1	14.9
Madaba	8.9	13.5	10.0
Irbid	11.6	14.2	12.1
Mafraq	16.1	27.4	23.0
Jarashi	12.8	21.4	16.7
Ajlun	17.8	17.2	17.7
Karak	24.6	20.3	21.7
Tafila	23.7	8.2	19.1
Maani	8.7	18.0	12.7
Aqaba	9.7	49.1	15.5
Jordan	11.8	18.7	13.0

## 6. 教育と貧困

貧困と教育は密接に結びついている。高学歴及び熟練労働者と比較して、教育水準及び技能の熟練水準が低い人ほど失業に陥る可能性が高いことを実証するデータも存在し、世帯構成員の教育年数に応じて、世帯の豊かさも増えていくと推定される（IV- 4. 食糧安全保障・脆弱性による分析 参照）。ヨルダン政府は、教育分野への支出、貧困格差の縮小をコミットするとともに、あらゆるレベルで ICT 訓練を取り入れ、教育及び職業訓練機会を拡大・改善することでヨルダン人が世界経済の中で活躍するための後押しをしている。こうした目的のため、政府は貧困層をカテゴリー別（現金給付を受ける貧困層の中でも最も貧しい人々、働いているが所得が不十分なワーキングプア、絶えず貧困線以下に陥るリスクを抱えた人々）に分類し、それぞれのカテゴリーが抱える問題に対処するための政策を立案している<sup>95</sup>。

教育水準は、所得に大きく影響している。貧困層の成人は、非貧困層の成人と比べて所得が少なくなる可能性が高い。基礎教育を受けていない人口は貧困層に多く、貧困層の成人の半数以上（52%）が基礎教育以下の水準となっている。非貧困層の成人の基礎教育以下の教育水準が 34%と比べるとその差は明確である。この教育水準の差は所得にも反映しており、労働者 1 人あたりの年収は、非貧困層が 3,352JOD であるの対し、貧困層は 2,266 JOD にとどまる<sup>96</sup>。

<sup>94</sup> WB/MoPIC (2009), Hashemite Kingdom of Jordan, Poverty Update, (In Two Volumes) Volume II: Appendices, p. 18.

<sup>95</sup> UNDP (2007), Assessment of Development Results, Jordan, Evaluation of UNDP Contribution, p. 10.

<sup>96</sup> WB/MoPIC (2009), Hashemite Kingdom of Jordan, Poverty Update, (In Two Volumes) Volume I: Main Report, p. 7.

図表 26 所得階層別属性分布（教育水準含む）<sup>97</sup>

Box III.1. When you think of a "poor" Jordanian, which group are you thinking of?

If you are thinking of a family of six, in which each employed adult earns an average of JD 226 per month, you are not thinking of a poor person. You are thinking of someone in the second quintile.

A person who would be considered poor by the definition of this report lives in a different type of household – one with eight members, in which the average earnings of each employed person are no more than JD 190 per month, including both cash and in-kind earnings.<sup>98</sup>

	Poor Households	Households with Govt. employees	Q1 (poorest)	Q2	Q3	Q4	Q5 (richest)
Children	4	2	4	5	2	2	1
Household size	8	6	7	7	6	5	5
Adults as % of all household members	51%	59%	47%	50%	57%	63%	66%
% of adults with less than basic education (% of adults)	51%	33%	52%	44%	37%	32%	25%
Employed as % of all household members	14%	27%	10%	15%	16%	24%	32%
Employed adults as % of all adults in household	26%	44%	20%	29%	33%	38%	47%
Per capita real income (JD/month)	42	95	30	49	68	97	212
Earnings per employed (JD/month)	190	240	166	201	214	247	385

## 7. 雇用と貧困

雇用状態と貧困には密接な関係性がある。各世帯の雇用されている家族の割合は世帯の生活水準を理解し、比較する上で重要な指標となる。図表 27 は、階層別に分類された世帯の雇用状況（15 歳以上の構成員を対象）を表すものであるが、最下層（第 1 五分位）の世帯では構成員の 19.3%が就業している一方で、最上層（第 5 五分位）では 41.4%の構成員が就業していることが分かる。1 世帯あたりの就業率は、裕福な階層になるほど高くなっている。また、失業率に関しても、最上層と最下層では 6.1%と 13.1%と 2 倍以上の開きがある。また最下層では 67.6%が労働市場に参加していない（inactive）。これらは最下層に属する貧困世帯で 3 分の 2 以上の世帯構成員が仕事に就かず、世帯の所得に何ら貢献していないことを示している<sup>98</sup>。

図表 28 は労働所得の伸びを示したものである。労働所得は、富裕層で最も高い成長（17%）を示した。これは雇用主としての所得及び自営業者としての所得が高い伸びとなった結果であるが、その他の階層では、中間層で僅かな所得の伸び（各 3%）が見られたものの、低所得層では殆ど所得が伸びていないことが分かる<sup>99</sup>。

<sup>97</sup> WB/MoPIC (2009), Hashemite Kingdom of Jordan, Poverty Update, (In Two Volumes) Volume I: Main Report, p. 13. データ年不明。

<sup>98</sup> WB/MoPIC (2009), Hashemite Kingdom of Jordan, Poverty Update, (In Two Volumes) Volume II: Appendices, p. 21.

<sup>99</sup> WB/MoPIC (2009), Hashemite Kingdom of Jordan, Poverty Update, (In Two Volumes) Volume I: Main Report, p. 16.

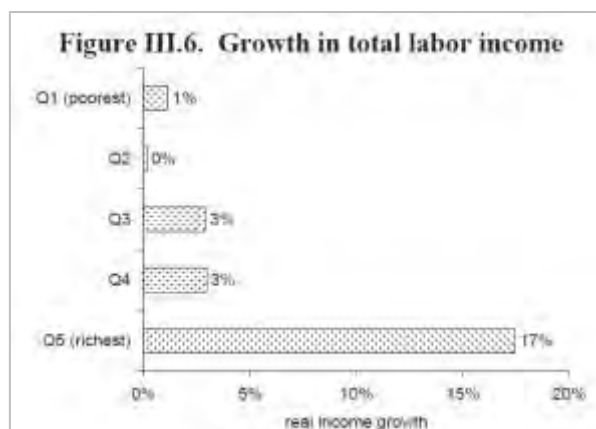


図表 27 2006 年雇用状況（世帯における 15 歳以上の世帯構成員の割合）<sup>100</sup>

Table I.22. Employment status of the population 15 years and over: 2006

Quintiles	Shares					Total
	1 <sup>st</sup> quintile	2 <sup>nd</sup> quintile	3 <sup>rd</sup> quintile	4 <sup>th</sup> quintile	5 <sup>th</sup> quintile	
Employee	15.1	22.9	25.7	29.8	34.7	26.6
Employer	0.8	1.1	1.6	1.8	3.7	2.0
Own account and family worker	3.4	3.4	3.6	3.9	3.0	3.5
Unemployed	13.1	10.0	9.3	8.8	6.1	9.1
Not in labor force	67.6	62.7	59.7	55.7	52.5	58.8
Total	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

図表 28 労働所得の伸び率（2006 年）<sup>101</sup>



下図にあるとおり、雇用所得は、経済成長による恩恵が人々の間で分配される基本的なメカニズムである。ヨルダン人は、所得に関し自らの主要な資産である労働に強く依存しており、最上層の人々の 55%以上の所得は労働所得から成っている<sup>102</sup>。他方で、海外からの送金を通じた所得は中間・富裕層の間で主に発生する所得である。ヨルダンから国外移住する人々は高い教育水準を受け、裕福な家庭の出身者に多く見られる。その結果、移転所得に含まれる海外からの送金額は、絶対額のみならず世帯所得に占める割合においても富裕層の方が貧困層よりも高い<sup>103</sup>（海外からの送金については V.1.参照）。

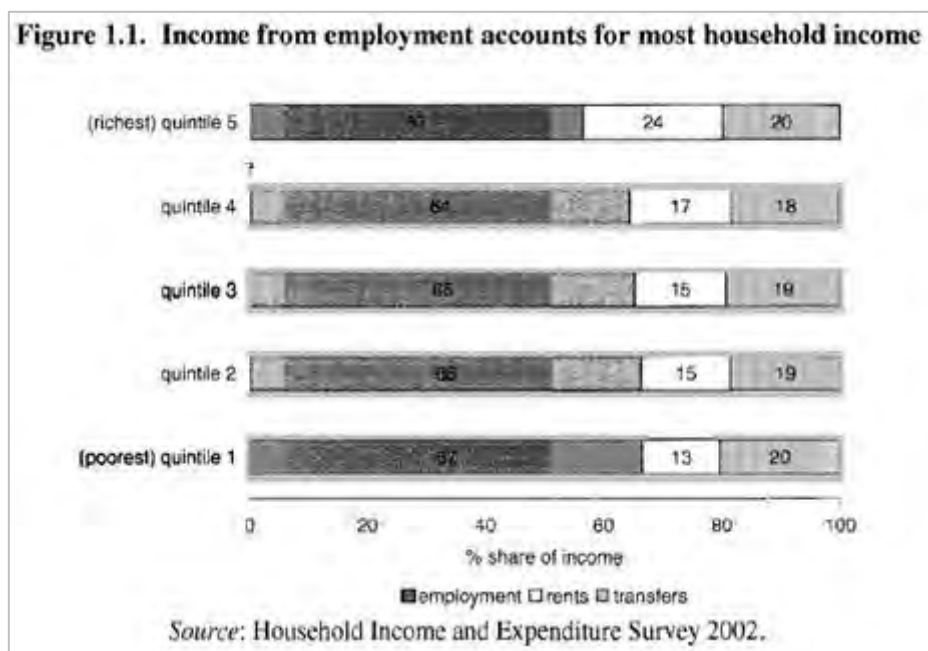
<sup>100</sup> WB/MoPIC (2009), Hashemite Kingdom of Jordan, Poverty Update, (In Two Volumes) Volume II: Appendices, p. 21.

<sup>101</sup> WB/MoPIC (2009), Hashemite Kingdom of Jordan, Poverty Update, (In Two Volumes) Volume I: Main Report, p. 16.

<sup>102</sup> WB (2008), Hashemite Kingdom of Jordan, Resolving Jordan's Labor Market Paradox of Concurrent Economic Growth and High Unemployment, p. 1.

<sup>103</sup> WB (2008), Hashemite Kingdom of Jordan, Resolving Jordan's Labor Market Paradox of Concurrent Economic Growth and High Unemployment, p. 52.

図表 29 階層別世帯所得内訳<sup>104</sup>



ヨルダンでは 30 歳未満の人口が全体の 57%を占める若い人口構成となっており、30 歳未満の生産年齢人口のうち 40%が経済活動人口（economically active）と見なされる。しかし、ヨルダンの若者は労働力として十分活用されておらず、例えば、2009 年にヨルダン人失業者の 48.8%は 15-24 歳人口で占められた。男女ともに大半の失業者は 15-24 歳人口、すなわち、最低限の経験ないし少しも経験を持たない若い世代に集中している。ヨルダンの男性失業者は大半が中等教育以下の教育水準しか受けていないため、若い男性にとって、学業未修了は失業と貧困の悪循環に陥ることを示唆している<sup>105</sup>。

<sup>104</sup> WB (2008), Hashemite Kingdom of Jordan, Resolving Jordan's Labor Market Paradox of Concurrent Economic Growth and High Unemployment, p. 1.

<sup>105</sup> MoPIC/UNDP Jordan (2011), Jordan Human Development Report 2011, Small Businesses and Human Development, pp. 116-117.

図表 30 年齢層別男女の就労状況<sup>106</sup>

*Table 5.7 Labor Market Status of Jordanian Population*

Age Group	Men			Women		
	Employed (%)	Inactive (%)	Unemployment Rate (%)	Employed (%)	Inactive (%)	Unemployment Rate (%)
15-19	15.2	78	30.9	0.7	98.8	38.1
20-24	54.4	32.5	19.5	12.1	77.4	46.4
25-39	86.6	6.3	7.5	19.9	74.8	21.2
40-54	76.7	18.8	5.5	12	87.3	15.7
55-64	43.6	54.2	4.8	2.6	97.3	3
65+	11.9	87.7	3.1	0.3	99.7	0

Source: DOS, 2009, *Employment and Unemployment Survey*

## 8. 社会保障と貧困（補助金の撤廃）

ヨルダンでは、1994年まで多くの製品に政府からの補助金が充てられてきた。2004年以降は補助金の対象が燃料製品、パン、家畜用飼料にのみに限定されたが、一種の社会保障の仕組みとして捉えられてきた。しかし、国際原油価格の上昇とともに、燃料補助金は、予算の圧迫及び経済的な歪みを生むようになり、2008年度予算から燃料補助金の削減という大胆な政策が実施された<sup>107</sup>。これにより燃料関係の製品は大幅に上昇し、人々の生活に影響を与える結果となった（図表 31 を参照）。

従来補助金に充てられていた政府予算は、主に富裕層に向け予算となった。ガス・シリンダー、灯油、ガソリン等の燃料に関する補助金予算の大部分は自家用車等を保有する最上層が、公共交通機関、電気料金に関する補助金予算の大部分は乗り合いタクシーの利用頻度が多い中間層及び上位中間層（upper-middle class）の人々が恩恵を得た<sup>108</sup>。

燃料製品が世帯の支出全体に占める割合は、貧困層を除き、最上層で 26%、下位中間層（lower middle class）で 28%と各所得階層にわたって一定である。しかし、貧困層（全世帯の 13%）は 35%と燃料にかかる支出が比較的高い状態となっている。この状況下での燃料補助金の削減は、あらゆる世帯に影響を及ぼすが、中でも貧困層は燃料価格上昇により、どの階層よりも厳しい打撃を受けると考えられる。例えば、あらゆる燃料価格が 50%

<sup>106</sup> MoPIC/UNDP Jordan (2011), *Jordan Human Development Report 2011, Small Businesses and Human Development*, p. 117

<sup>107</sup> WB/MoPIC (2009), *Hashemite Kingdom of Jordan, Poverty Update, (In Two Volumes) Volume I: Main Report*, p. 22.

補償措置には、13の基礎食料品（牛乳、米、植物油、砂糖等）に対する一般売上税（General Sales Tax）の免除、国家支援基金（NAF）を通じた給付金の引き上げ、公務員給与引き上げ、パンに対する補助金割当・維持等が含まれた（WB/MoPIC (2009), *Hashemite Kingdom of Jordan, Poverty Update, (In Two Volumes) Volume II: Appendices*, pp.48-50. 参照）。

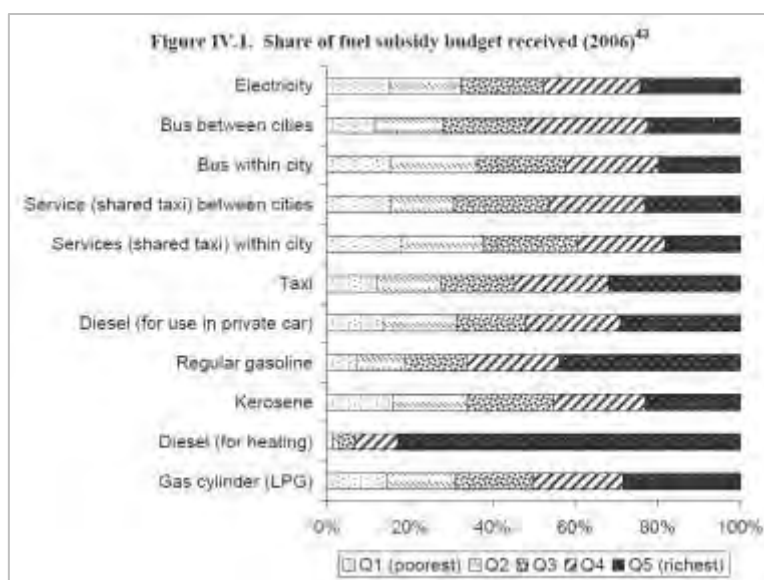
<sup>108</sup> WB/MoPIC (2009), *Hashemite Kingdom of Jordan, Poverty Update, (In Two Volumes) Volume I: Main Report*, p. 25.

上昇すれば、貧困層はそれまでの消費を維持するために 17.5%の支出増が求められる<sup>109</sup>。

図表 31 補助金削減に伴う 2008 年時点の燃料価格変動<sup>110</sup>

Item	Old price	New price	Increase
Regular	430 fils	unleaded (90) 575 fils	33%
Unleaded	640 fils	unleaded (95) 660 fils	3%
Super	605 fils	unleaded (95) 660 fils	9%
Kerosene	315 fils	555 fils	76%
Diesel	315 fils	555 fils	76%
Heavy oil for			
Electricity	JD165	JD348	111%
LPG	JD4.25	JD6.5	53%
Buses <sup>40</sup>	-	-	23%
Amman taxis	54m for JD 0.1	60m for JD 0.1	-
Airport taxis	-	-	10%

図表 32 燃料補助金予算の階層別受給比率 (2006 年)<sup>111</sup>



<sup>109</sup> WB/MoPIC (2009), Hashemite Kingdom of Jordan, Poverty Update, (In Two Volumes) Volume I: Main Report, p. 25.

<sup>110</sup> WB/MoPIC (2009), Hashemite Kingdom of Jordan, Poverty Update, (In Two Volumes) Volume I: Main Report, p. 22.

<sup>111</sup> WB/MoPIC (2009), Hashemite Kingdom of Jordan, Poverty Update, (In Two Volumes) Volume I: Main Report, p. 24.

## VI. 貧困に影響を与えている国内外の要因

### 1. 人口増加

2011年時点のヨルダンの人口は651万人と想定されている<sup>112</sup>。その内0-14歳が32.2%、15-64歳が62.4%、65歳以上は4.1%となっており、若年層が高い割合を占めていることが分かる。人口増加率は3.4%と推測されている。この高い人口増加率の要因は上述の周辺地域での紛争に伴う難民の流入が指摘されている。移民による人口増を除いた自然人口増加率は2.5%となっている<sup>113</sup>。ヨルダンのように資源もなく、水資源などない国において、適正な人口水準が社会・経済発展、貧困削減、環境維持のために重要である。不安定な地域情勢、またそれに伴う不自然な人口増加はヨルダンの開発に負の影響を与え、開発への取り組みのみならず計画策定も極めて困難なものにしている<sup>114</sup>。

### 2. 世帯構成

図表 33 は所得別人口構成を示したものである。最貧層人口の約半数（49.5%）が14歳以下、労働人口は47.4%となっているのに対して最上層の子供（14歳以下）は21.6%であり、労働人口は65.7%となっており、人口構成が異なっていることが分かる。また、子供と60歳以上の年配者を労働力に含めずに世帯に依存した年齢層と仮定した場合、全人口に対する労働世代（15-59歳）比率としての人口統計学的な依存率が表される。例えば、図表 33 にある、最下層の2.1という数字は、労働世代の1人が最下層人口の2.1人を支えていることを意味する。以下 図表 33 から明らかなように、依存率は、富裕階層ほど低くなり、貧困層における負担が大きいことを示唆している<sup>115</sup>。

図表 33 年齢・所得別人口構成（2006年）<sup>116</sup>

Age groups	1st quintile	2nd quintile	3rd quintile	4th quintile	5th quintile	Total pop
Children 0-4y	13.6	13.9	12.4	10.7	7.4	11.6
Children 5-14y	35.9	31.6	25.4	20.1	14.2	25.5
Youth 15-24y	19.3	20.0	23.3	25.3	23.7	22.3
Adults 25-59y	28.1	30.6	33.7	37.5	42.0	34.4
Elderly 60+	3.1	3.9	5.1	6.4	12.7	6.2
Total population	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Demographic dependency ratio	2.1	2.0	1.8	1.6	1.5	1.8

<sup>112</sup> <http://www.state.gov/r/pa/ei/bgn/3464.htm>（2012年2月6日アクセス）

<sup>113</sup> Jordan Human Resources <http://www.kinghussein.gov.jo/resources2.html>（2012年2月1日アクセス）

<sup>114</sup> UNDP (2007), Assessment of Development Results, Jordan, Evaluation of UNDP Contribution, p. 7.

<sup>115</sup> WB/MoPIC (2009), Hashemite Kingdom of Jordan, Poverty Update, (In Two Volumes) Volume II: Appendices, pp. 19-20.

<sup>116</sup> WB/MoPIC (2009), Hashemite Kingdom of Jordan, Poverty Update, (In Two Volumes) Volume II: Appendices, p. 20.

### 3. 高失業率及び労働条件

ヨルダンの失業率は慢性的に高く、改善の兆しが見られない。公式失業率は 15%であるが、非公式な失業率は 30%とも考えられている<sup>117</sup>。特に近年平均 7%台の経済成長（2004-2009）を遂げているにも係らず、ヨルダン人の失業率が改善されていない。これは単に経済状況や雇用以外に失業率に影響を与えていることを示唆している。これには第一に、外国人労働者の流入がある。2009 年には高失業率にも係わらず、335,000 の労働ビザが発行されている。また、失業者している若者の多くは教育レベルが低いことは広く知られており、この事が失業に対する脆弱性を高めている<sup>118</sup>。

また、たとえ雇用されていても、1 人の労働者が 4 人を経済的に支えるという労働者に対し高い負担率を強いる社会構造、低い賃金、ディーセントワークの概念の欠如した職場（特にインフォーマルセクター）といった要素はすべてヨルダン人の貧困要因となっている<sup>119</sup>。

### 4. 労働市場のミスマッチ<sup>120</sup>

高成長と高失業率の共存、新規雇用とヨルダン人失業率の間の不適合に関し、世銀（Resolving Jordan's Labor Market Paradox of Concurrent Economic Growth and High Unemployment）は、3 つのミスマッチ（地域性、雇用条件との合致、期待と実態の乖離）を挙げている。具体的には、地域性に関しては、新規雇用は失業者の生活拠点から離れたところで生み出されることがあった。例えば、2000-2004 年の間に創出された仕事の 65% がアンマンに集中したのに対し、アンマンには失業率人口の 40%未滿しかおらず、このことはアンマン以外の県では失業率に応じた新規雇用が創出されなかったことを示している。また、雇用条件との合致（employability）に関しては、ヨルダン人労働者は、教育、職業訓練、職務経験において外国人労働者と遜色ないと評されたが、ヨルダン人労働者は雇用条件に見合う技能が不足していると思なされることがあった。ヨルダン大学戦略研究所が経営者に対して実施した調査（Study on Employment in Jordan: Replacement of Foreign Labor）では、ヨルダン人労働者は、外国人労働者と比べて、あまり働かない、責任を取りたがらない、よく欠勤するということが明らかとなり、主に勤務態度からくるものと考えられている。最後に、最も重要なミスマッチとして、失業者が雇用に対して抱く期待と既存の低い賃金での雇用実態の間の乖離が確認された。このことは、既存の賃金水準で有効

<sup>117</sup> ILO (2008), Independent Evaluation of the ILO's Country Programme for the Hashemite Kingdom of Jordan 2002-2007, p. 24.

<sup>118</sup> MoPIC (2010), Keeping the Promise and Achieving Aspiration – Second National Millennium Development Goals Report, Jordan 2010, p. 25.

<sup>119</sup> MoPIC (2010), Keeping the Promise and Achieving Aspiration – Second National Millennium Development Goals Report, Jordan 2010, p. 25.

<sup>120</sup> WB (2008), Hashemite Kingdom of Jordan, Resolving Jordan's Labor Market Paradox of Concurrent Economic Growth and High Unemployment, pp. iii-iv.

な求人の中から積極的に職に就きたいと回答したヨルダン人失業者は 46%にとどまり、54%の人々は職を望まないという調査結果が示唆している。

## 5. 自発的な失業者

前項でも取り上げられた、働く意思はあるものの現在よりも大幅に賃金が改善されない限り職に就きたくない半数以上の失業者は「自発的な失業者」と呼ばれる。上記調査は、失業者に対し有効求人全てを提示したわけではないので、調査結果の正確性に一部限界を有するが、大半の求人は含まれており、故に失業者を自発的に失業状態となった人々と本人の意思に反して失業状態にある人々の 2 つのグループに大別するのに役立つ<sup>121</sup>。自発的な失業者に対しては、公共投資の増加等の従来手法では解決策とはならず、別の手法を採用する必要がある<sup>122</sup>。

自発的な失業者は、長期的にはヨルダンを知識経済にするという目標と政策を合致させることで減らすことが可能である。具体的には、(1)法規制の歪みを取り除く、(2)外国人労働者の採用を抑え、熟練したヨルダン人労働者を積極的に登用する、(3)新事業の創出を促進する、等の取り組みが必要となる。短期的には、自発的な失業者が既存の求人を受け入れるようにするために、(1)社会保障改革の実施、(2)労働市場データの公表を通じた現実的な労働市場の実態の説明、等の取り組みが必要となる<sup>123</sup>。

## 6. 外国人労働者

既述の通りヨルダンは、現地住民に対する移民の割合が世界的に最も高い国の 1 つである。パレスチナ難民の最大の受入国であり、イラク戦争によるイラク人避難民や 2000 年 9 月に起きた第 2 次インティファダ（イスラエルによるパレスチナ軍事占領に対する民衆蜂起）後のパレスチナ難民と積極的に受け入れてきた。この大量の移民の流入は、ヨルダン経済にとって一層の負担となり、既に限界に達した社会サービス及び乏しい天然資源を圧迫している。

この為、ヨルダンには 2 つの異なる労働市場が存在している。1 つは相対的に高い賃金及び安定した雇用を提供するヨルダン人中心の市場、2 つ目は低賃金、高い離職率、最小限の法的保護が特徴の外国人労働者中心の市場である。後者は特に農業や建築関連の市場に分けられる。

ヨルダン経済は 2000 年前後から民間外国投資の流入があり、高い GDP 成長率を記録した。特に湾岸諸国の原油収益の上昇及び裕福なイラク人のヨルダンへの移住によって誘発された民間外国投資は 2001 年以降劇的に急増した。政府の失業削減戦略とも結びつき、経

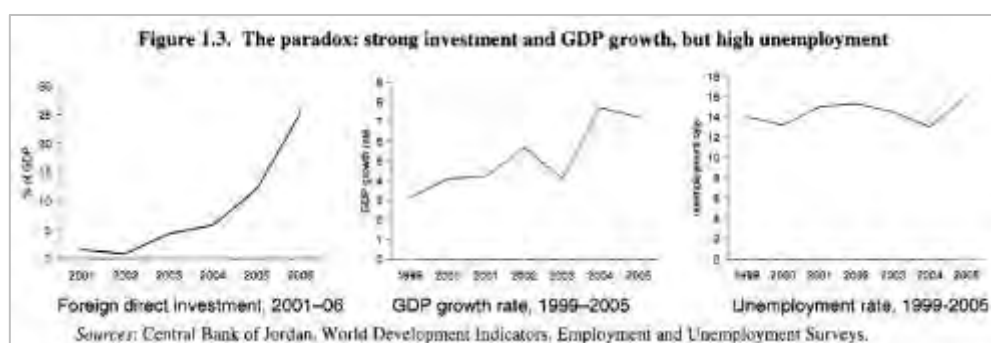
<sup>121</sup> WB (2008), Hashemite Kingdom of Jordan, Resolving Jordan's Labor Market Paradox of Concurrent Economic Growth and High Unemployment, p. 18.

<sup>122</sup> WB (2008), Hashemite Kingdom of Jordan, Resolving Jordan's Labor Market Paradox of Concurrent Economic Growth and High Unemployment, p. iv.

<sup>123</sup> WB (2008), Hashemite Kingdom of Jordan, Resolving Jordan's Labor Market Paradox of Concurrent Economic Growth and High Unemployment, p. vi.

経済成長は多くの新規雇用を生み出すことになり、2000年から2005年にかけて年間24,000から44,000人の追加雇用が生まれた。他方で失業率は14-16%と期待されたほど変化が見られなかった。この点に関し、詳しく検証すると、新たに創出された雇用の多くは、ヨルダン人ではなく外国人労働者によって埋められていることが分かる。具体的な数字は、データの出典によって異なるものの、全体の傾向は概ね一致している（図表35参照）。平均値で見ると、図表35の上のデータでは外国人労働者が全体の雇用数に占める割合が63%であるのに対し、下のデータでは52%となっている。こうした傾向の結果、ヨルダンの外国人労働者数は25から30万人となり、ヨルダン人失業者数（2005年に17万5千人）を大きく上回る結果となった。

図表 34 外国直接投資、GDP、失業率推移



図表 35 ヨルダン労働者と外国人労働者の雇用推移（2001-2005年）<sup>124</sup>

Table 1.1. All official data sources tell the same story: many new jobs but most filled by foreign workers

Job creation based on DOS's EUS and MOL data	2001	2002	2003	2004	2005	Average
Jordanians	200	9,900	6,400	42,900	23,300	16,500
Foreigners	26,000	-9,400	21,600	69,900	31,600	27,900
Total	26,200	500	28,000	112,800	54,900	44,500

Job creation based on DOS's "blended" data	2001	2002	2003	2004	2005	Average
Jordanians	29,400	14,400	22,000	500	-9,400	11,400
Foreigners	4,400	4,400	20,700	28,800	2,900	12,500
Total	33,800	18,800	42,700	29,300	-6,434	23,900

Note: Totals and averages may not add up due to rounding. See Box 1.1 for description of sources.

<sup>124</sup> WB (2008), Hashemite Kingdom of Jordan, Resolving Jordan's Labor Market Paradox of Concurrent Economic Growth and High Unemployment, p. 4.



## 7. 近隣地域の安定

ヨルダンの一部の経済指標の脆弱性や周辺地域の政治情勢の不安定性によって外的ショックを受けやすい。具体的には、ヨルダンは日用品価格、観光収入、エネルギー輸入、湾岸諸国からの労働者送金、民間資本の変動等に脆弱である一方、重要な貿易相手国であるイラクの政情不安、パレスチナ情勢、テロリズムの脅威を含む地域の政治的發展によって多大な影響を受けている<sup>125</sup>。過去 10 年以上にわたり、ヨルダンは経済改革に積極的で、地域で最も業績を挙げた国の 1 つであるが、外的ショックに対する脆弱性を抑えるためには健全な経済政策が不可欠である<sup>126</sup>。

---

<sup>125</sup> WB (2006), Country Assistance Strategy for the Hashemite Kingdom of Jordan for the Period FY2006-FY2010, p. 27.

<sup>126</sup> 世銀ウェブサイト参照。

<http://web.worldbank.org/WBSITE/EXTERNAL/COUNTRIES/MENAEXT/JORDANEXTN/0,,menuPK:315140~pagePK:141132~piPK:141107~theSitePK:315130,00.html> (2012 年 2 月 6 日アクセス)

## VII. ヨルダンのこれまでの JICA 事業における優先分野の中で貧困の視点からの特に重要な事項と貧困との関連分析

### 1. 観光セクター

観光業は、GDP への寄与度、外貨獲得、雇用創出の観点から、21 世紀におけるヨルダンの急成長産業の 1 つである。2009 年の G20 において、観光業は、雇用創出、貿易発展、貧困削減のための主要な手段であるとの主張がなされた。国連の世界観光機関 (WTO) によると、複数の経済危機にもかかわらず、海外を訪問する観光客数は図表 36 で示す通り、1990 年の 4.38 億人から、2000 年に 6.81 億人、2010 年に 9.35 億人と絶えず伸び続けている<sup>127</sup>。ヨルダンの観光業は、2001 年以降安定した成長を続けており、2010 年には 800 万人を超える訪問者数を記録した。うち 455 万人が宿泊を伴う訪問者であり、対前年比で 20.3%増加した。観光支出は、24.23 億 JOD を上回り、ヨルダンの GDP に 12.4%貢献している。2010 年に観光業で直接雇用された人数は 41,900 人、間接的な雇用者は 126,000 人に達し (図表 37 参照)、乗数効果を考慮すると、経済全体で十数万人分の雇用を支えたと推定される<sup>128</sup>。

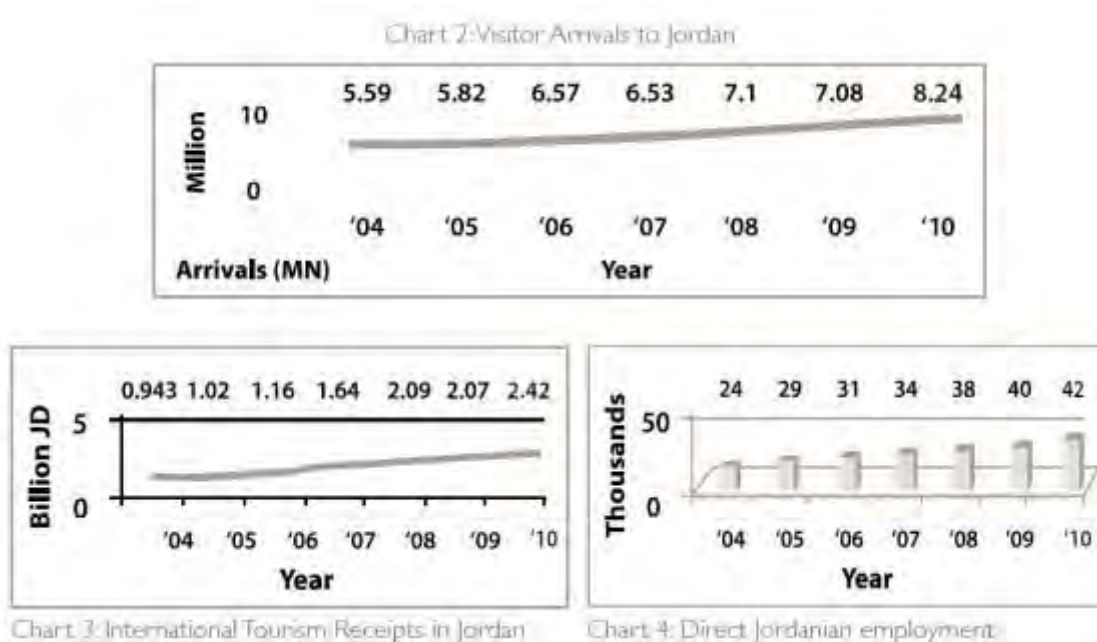
ヨルダン国家観光戦略 2004-2010 (NTS2004-2010) は上述のように著しい成果を生み出した。この期間、ヨルダンは観光客及び投資家の双方にとって魅力的な選択肢として評価を高めた。この成果を将来に繋げるために、現在の勢いと発展のスピードを維持し、高い質を持った観光地としてヨルダンの地位を確固たるものとし、観光産業の競争力を長期間に渡って持続可能なものとする為、2011 年新たに国家観光戦略 2011-2015 (NTS2011-2015) が策定された。NTS2010-2015 では、公的部門とのパートナーシップを得て民間主導となる予定である。また、観光業がヨルダンの経済・社会開発に最大限貢献できるよう競争性や持続性といった横断的なテーマが取り入れられた<sup>129</sup>。

<sup>127</sup> Ministry of Tourism and Antiquities (2011), The National Tourism Strategy 2011-2015 for Jordan, P. 21.

<sup>128</sup> Ministry of Tourism and Antiquities (2011), The National Tourism Strategy 2011-2015 for Jordan, P. 22.

<sup>129</sup> Ministry of Tourism and Antiquities (2011), The National Tourism Strategy 2011-2015 for Jordan, P. 7.

図表 36 ヨルダン観光関連指標推移（2004-2010年）<sup>130</sup>



NTS2004-2010 では、観光業を通じた直接・間接雇用を 85%増加させることにつながったが、同時に女性の就業率の向上<sup>131</sup>、観光産業に新たに就職した労働者に対し国際基準の技能訓練を提供する 11 の職業訓練センターの発足等にも貢献した。NTS2011-2015 の方向性としては、教育、訓練水準の更なる向上、ベストプラクティスを用いた人材育成実施のための企業支援に焦点を当てながら、労働市場開発に向けた具体的な目標として、新たに 25,000 人分の直接雇用、女性労働参加率の上昇（15%に引き上げ）、職業訓練センターで 5,000 人の学生に対する訓練、40,000 人の労働者に対する技能訓練（hospitality skill）の提供が計画されている<sup>132</sup>。

NTS2011-2015 は、これまでの NTS2004-2010 の業績を維持する指針を打ち出している。同 NTS 内で提案された活動規模及び目標は野心的ではあるが、あらゆるステークホルダーからのコミットメント及び参加が協力的なものであれば達成可能であると考えられている。これらの成果の達成は、ヨルダンを観光立国に変えるばかりでなく、さらに重要なことに、経済・社会開発にとって実質的な違いを生み出すことができることであるという認識に立つ必要がある<sup>133</sup>。

<sup>130</sup> Ministry of Tourism and Antiquities (2011), The National Tourism Strategy 2011-2015 for Jordan, P. 22.

<sup>131</sup> 全労働人口に対する女性の比率が 10%に達した。

<sup>132</sup> Ministry of Tourism and Antiquities (2011), The National Tourism Strategy 2011-2015 for Jordan, P. 30.

<sup>133</sup> Ministry of Tourism and Antiquities (2011), The National Tourism Strategy 2011-2015 for Jordan, P. 85.

図表 37 観光業における直接・間接雇用水準（2003年、2010年）<sup>134</sup>

Table 4 – Direct and Indirect Employment Levels 2003 v 2010

	2003	2010
Direct employment	22817	41900
Indirect employment	68451	126000

## 2. 水セクター

水問題はヨルダンの貧困に大きく関係している社会開発問題である。ヨルダン、世界的に1人あたりの利用可能水量が最も低い国の1つである。上述のように急激に人口が増加し、気候変動が潜在的に降水量をより不確実で不安定になるにつれ、水不足は今後更に深刻な問題となると見られる。したがって、水資源管理は、政府が直面する重要な問題である。政府は水資源の管理、追加的な水資源の調査及び需要を満たすための取水の増加等を精力的に行っているが、状況は改善していない。またこれら対応事態がヨルダンに高い負担となっている。その為、現在は化石水を含む帯水層から得られる再生不能な水資源の開発に着手しようとしている<sup>135</sup>。このような事態は、ヨルダンの開発ニーズを満たすことのできる水供給を目的とした開発計画及び政府の取り組みに影響を及ぼしている。この結果、1人あたりの利用可能な水の割当は、1946年の年間3,600立方メートルから2008年には150立方メートルへと減少した。これは、年間1,000立方メートルとされる水貧困線（Water Poverty Line）を下回る深刻な数値と見なされている<sup>136</sup>。

こうした水不足は、地方の人々の生活に大きな影響を与えている。地方の世帯は主に以下の3つのグループに分類されている。まず第一は、家畜飼育で生計を立てる遊牧民、第二グループは、牧畜と農業の両方の従事し生計を立てるグループ、最後に、土地は持たないが農業で生計を立てる小作農である。これらの3グループにとって農牧業は重要な生計手段であるが、彼らは農業への依存度を減らしており、本背景の一部には補助金の削減、家畜保有の減少とともに慢性的な水不足が関係している<sup>137</sup>。遊牧民に対しては、旱魃や国境封鎖による家畜飼育用の土地の縮小等により家畜規模が減少し、現在では多くの遊牧民は家畜飼育を放棄し、公的支援に依存している。第2のグループは、水不足から農業が衰退し、現在では僅かな家畜を保有するのみで穀物栽培による収入の大半を奪われた状況にある。最後に小作農は農業で生計を立てることが不可能となり、現在では都市に近い地域で賃金労働のほか、年金及び送金に依存する生活となっている。

<sup>134</sup> Ministry of Tourism and Antiquities (2011), The National Tourism Strategy 2011-2015 for Jordan, P. 30.

<sup>135</sup> WHO ウェブサイト参照。 <http://www.who.int/heli/pilots/jordan/en/index.html> (2012年2月6日アクセス)

<sup>136</sup> MoPIC/UN Jordan (2010), Keeping the Promise and Achieving Aspirations, Second National Millennium Development Goals Report, p. 86.

<sup>137</sup> IFAD (2007), Hashemite Kingdom of Jordan, Country strategic Opportunities Programme, p. 3.

### 3. 中小零細企業振興

ヨルダンの民間経済は、大半が中小零細企業（MSME : Micro, Small, and Medium Enterprises）<sup>138</sup>で構成されており、農業セクターを除く全企業の 99.6%を占める。MSME の普遍的な定義は存在しないが、一般的に、従業員が一定の人数を超えない（一部の国では 100 人、それ以外では 250 人）、収入、資産が限られた水準にあるといった特徴を有する（図表 38 参照）。ヨルダンの MSME の大半はフォーマル・セクターに属し、法律で規定されたとおり会社登録されているが、自営業の殆どは登録されていないインフォーマル・セクター<sup>139</sup>に属する。雇用の観点から、MSME は、民間部門の雇用の 71.4%、ヨルダンの官民両部門のあらゆる雇用機会の 49.4%を支えているため、雇用創出において重要な役割を果たしている<sup>140</sup>。2011 ヨルダン HDR 作成に際し実施された MSME の調査によると、MSME の従業員の 23%は 19-25 歳の年齢層で占められ、政府統計に基づくヨルダン全体の労働者に占める 15-24 歳の割合が 20.4%であることを鑑みると、MSME が若者の雇用を促進する役割が窺える。実際に会社の規模が小さくなるほど、若者や学位等を持たない人を雇用する傾向が強いことが判明している<sup>141</sup>。また、同調査では、50-99 人規模の中規模企業で基礎教育水準の従業員が 32%と最も多く（中等教育 27%、高等教育 27%）、1-5 人規模の零細企業でも基礎教育水準の従業員は 18%と比較的高かった（中等教育 31%、高等教育 20%）。このように、MSME が低教育層の失業緩和に向けた機会を提供することは明らかであるが、MSME における低賃金および社会保障の欠如は幸福度の観点から不利な点も多い<sup>142</sup>。

<sup>138</sup> 普遍的に受け入れられた MSME の定義は存在しないが、ヨルダンでは政府が従業員数と資本金に応じた区分を規定している。（MoPIC/UNDP Jordan (2011) , Jordan Human Development Report 2011, Small Businesses and Human Development, p. 34.）

<sup>139</sup> 世銀の推計によると、ヨルダンのインフォーマル経済（登録・規定されていない経済活動で、課税対象となっていない）は、GNP の 19.4%に達する。

<sup>140</sup> MoPIC/UNDP Jordan (2011) , Jordan Human Development Report 2011, Small Businesses and Human Development, pp. 64-65.

<sup>141</sup> MoPIC/UNDP Jordan (2011) , Jordan Human Development Report 2011, Small Businesses and Human Development, p. 119.

<sup>142</sup> MoPIC/UNDP Jordan (2011) , Jordan Human Development Report 2011, Small Businesses and Human Development, p. 23.

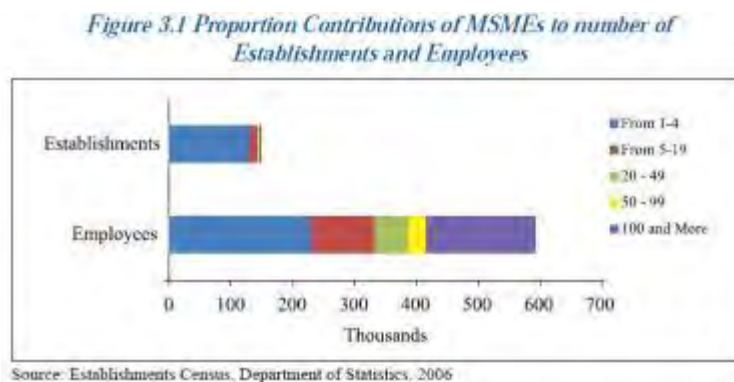
図表 38 中東・北アフリカ (MENA) における MSME の標準定義<sup>143</sup>

*Table 3.1 Standard Definitions of MSMEs across MENA*

	Micro	Small	Medium
Egypt	1 to 4 employees	5 to 14 employees	15 to 49 employees
Lebanon	1 to 9 employees	10 to 49 employees	50 to 99 employees
Oman	1 to 5 employees	6 to 20 employees	21 to 100 employees
Jordan	1 to 4 employees	5 to 19 employees	20 to 99 employees*
UAE	1 to 9 employees	10 to 49 employees	50 to 499 employees
Tunisia	1 to 9 employees	11 to 49 employees	50 to 99 employees

Source: MSMEs Database World Bank, January 2007, taken from Dabaibneh, R. and Tokat, F. "Booklet of Standardized MSME Definitions," USAID, August 2007  
\* Department of Statistics

図表 39 会社数及び従業員数に占める MSME の割合 (2006 年)<sup>144</sup>



MSME に対する小規模融資は活発に実施されている。過去 10 年間で、小規模融資を扱う機関は、民間小規模融資機関を含め、非政府・政府系機関係で計 11 の機関が展開している。特に民間の小規模融資機関は重要な役割を果たしており、中小企業に対して融資を中心とする金融サービスを提供している。小規模融資機関は、1999 年に 1,000 人の顧客に対し 440 万 JOD のローンを提供したが、2008 年には 116,000 人の顧客に対し 8,500 万 JOD に達するローンを提供するまでに成長した<sup>145</sup>。小規模融資の重要な役割として貧困層の起業促進がある。小規模融資利用者からの調査結果からは、回答者の 90%以上の利用者がビジネスを開始後、当初所得よりも所得が伸びていることが確認されている<sup>146</sup>。このように小規模融資が貧困層の零細企業に参加を促すことは貧困削減に一定の貢献をしていると考えられている。

<sup>143</sup> MoPIC/UNDP Jordan (2011), Jordan Human Development Report 2011, Small Businesses and Human Development, p. 64.

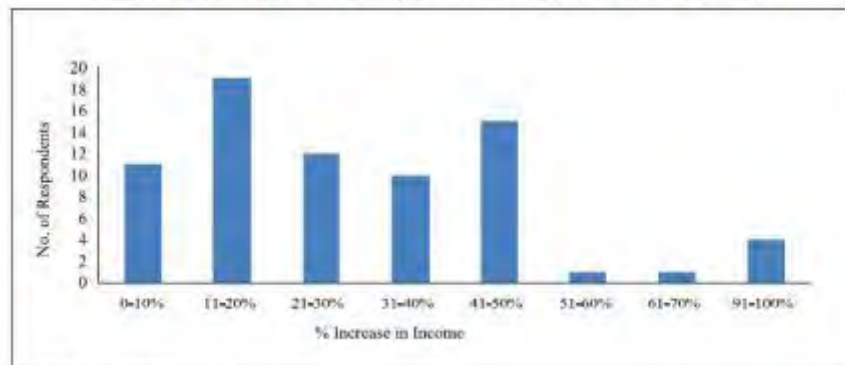
<sup>144</sup> MoPIC/UNDP Jordan (2011), Jordan Human Development Report 2011, Small Businesses and Human Development, p. 66.

<sup>145</sup> MoPIC/UNDP Jordan (2011), Jordan Human Development Report 2011, Small Businesses and Human Development, p. 26.

<sup>146</sup> MoPIC/UNDP Jordan (2011), Jordan Human Development Report 2011, Small Businesses and Human Development, p. 128.

図表 40 小規模融資利用者の所得変化（2009年）<sup>147</sup>

Figure 6.2 Microfinance Beneficiaries Change in Income after Loan



Source: Micro-enterprises Survey, 2009

地理的な観点から見ると、ヨルダンの MSME は、地方を中心に小規模な市町村で増加しつつあるものの、依然としてアンマン、アカバ、ザルカといった都市圏に集中している。ヨルダン国土の 3 分の 1 以下にあたる上記 3 県には、ヨルダンの MSME の 80% 以上、ヨルダン全体の雇用の 80% 以上、ヨルダン人口の 70% 以上を抱えている<sup>148</sup>。このことは、VI. 2. でも触れたとおり、近年の新規雇用が失業者の生活拠点から離れたところで創出されることと関連しており、アンマンとその他の地域の違いを浮き彫りにしている。アンマン以外の大半の県では、県別の失業者数に応じた雇用創出は行われず、さらに外国人を除くヨルダン人が就いた雇用だけを見ると、アンマンでの偏った雇用創出が一層際立つ。新規雇用が創出される場所と失業者分布とのミスマッチの結果、2000-2005 年にアンマンおよびザルカ県では失業率が低下した一方、その他全ての県では失業率が上昇し、中でもアカバ、イルビド、タフィーラ、マアン、カラクでは失業率が 5 ポイント以上上昇した<sup>149</sup>。

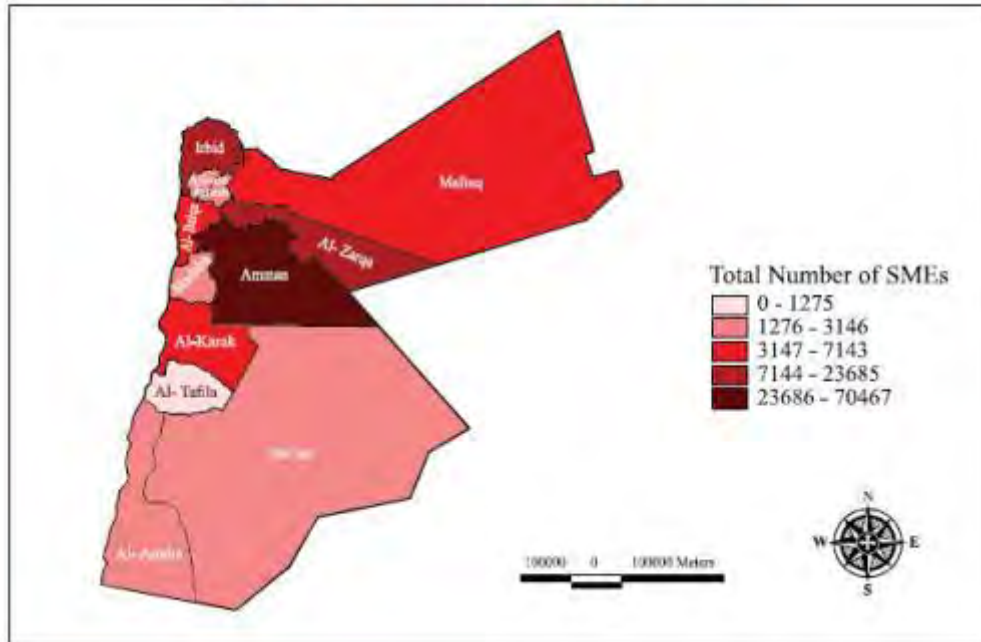
<sup>147</sup> MoPIC/UNDP Jordan (2011), Jordan Human Development Report 2011, Small Businesses and Human Development, p. 128.

<sup>148</sup> MoPIC/UNDP Jordan (2011), Jordan Human Development Report 2011, Small Businesses and Human Development, p. 77.

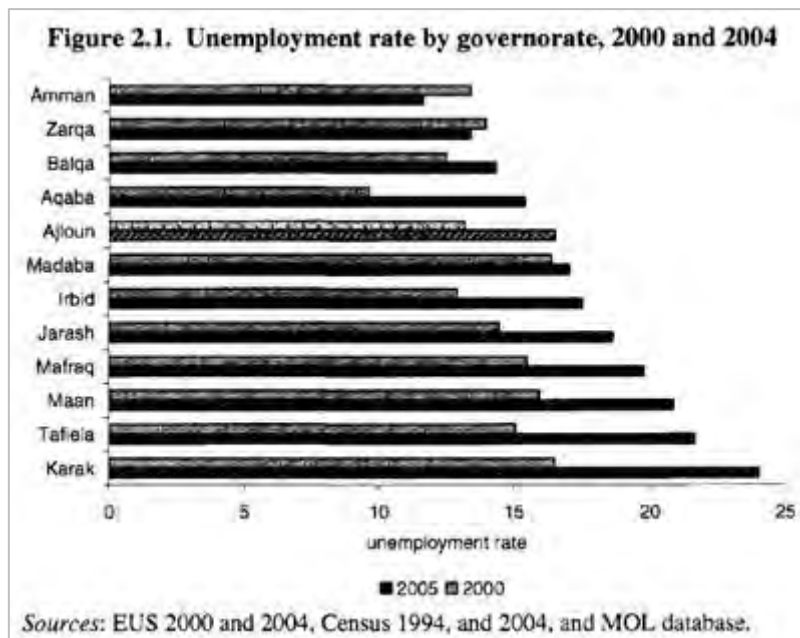
<sup>149</sup> WB (2008), Hashemite Kingdom of Jordan, Resolving Jordan's Labor Market Paradox of Concurrent Economic Growth and High Unemployment, p. 13.

地図 5 MSME 県別分布<sup>150</sup>

Figure 3.9 Numbers of MSMEs by Governorate



図表 41 県別失業率の推移（2000 年、2004 年）<sup>151</sup>



<sup>150</sup> MoPIC/UNDP Jordan (2011), Jordan Human Development Report 2011, Small Businesses and Human Development, p. 79.

<sup>151</sup> WB (2008), Hashemite Kingdom of Jordan, Resolving Jordan's Labor Market Paradox of Concurrent Economic Growth and High Unemployment, p. 14.



## 4. 社会的格差の是正

### (1) ジェンダー

中東・北アフリカ (MENA) 地域は、ジェンダー間の格差については、世界でも最も遅れた地域である。ジェンダー間の格差は実際に経済停滞を引き起こしており、仮にこれら地域で女性が国内の労働力人口に組み込まれたら、1人あたり GDP (MENA 諸国の平均として) は 0.7% 上昇すると推定される。経済活動におけるジェンダー間の格差は、単に人間開発の観点のみならず、経済的な必要性からも優先事項となっている<sup>152</sup>。ヨルダンにおける女性の失業率 (26%) は、男性の失業率 (13%) の 2 倍に達するが、女性失業者は全失業者数の 27% を占めるにすぎない。これは、女性の労働力参加率が男性の 64% に対して 12% にとどまっていることに起因している<sup>153</sup>。

また、女性の労働力参加率は、教育レベルとも強く相関している。中等教育またはそれ以下の教育水準にある殆どの女性は、労働力として労働市場に参入していない。対照的に、大卒女性の 3 分の 2 は、労働力となっている。上述の通り女性は失業者人口全体の 27% を占めているが、その女性失業者の大半の教育レベルは大学卒業となっている。したがって、失業者問題に取り組む際には、このような背景にも注意を払う必要がある<sup>154</sup>。

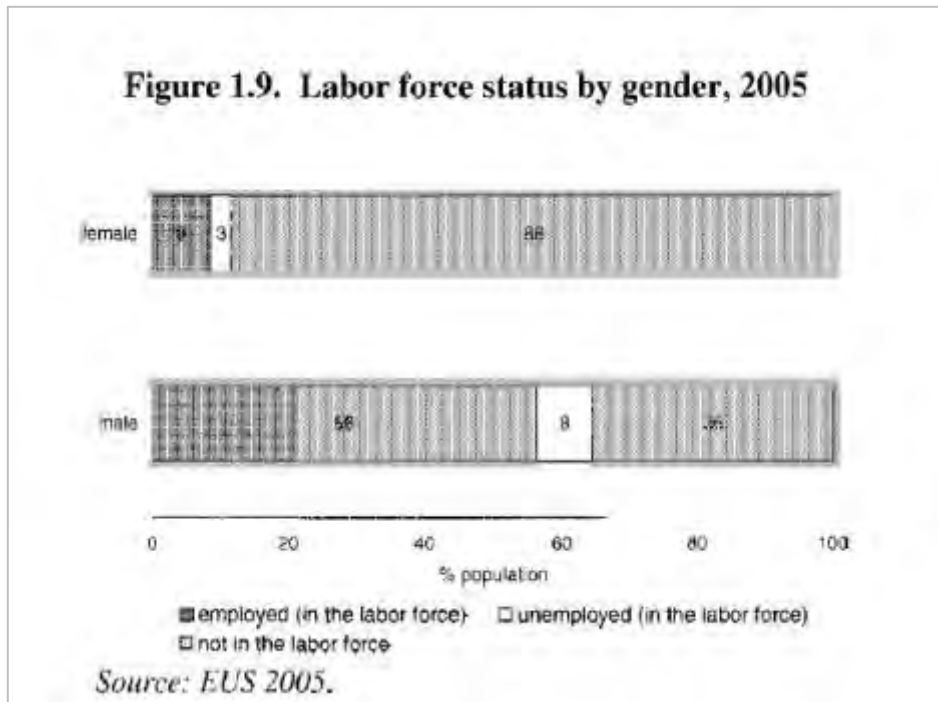
---

<sup>152</sup> MoPIC/UNDP Jordan (2011), Jordan Human Development Report 2011, Small Businesses and Human Development, p. 107.

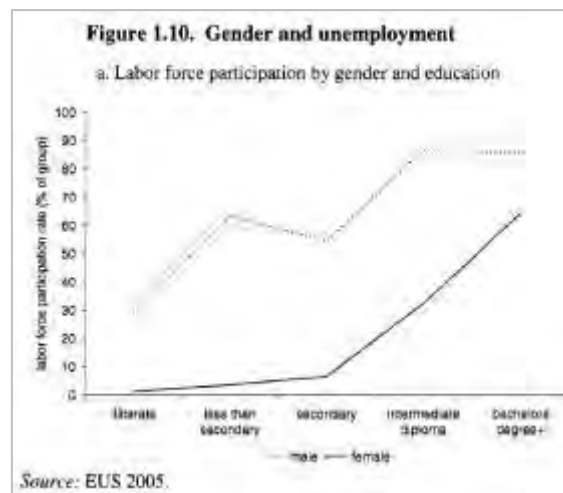
<sup>153</sup> WB (2008), Hashemite Kingdom of Jordan, Resolving Jordan's Labor Market Paradox of Concurrent Economic Growth and High Unemployment, p. 10.

<sup>154</sup> WB (2008), Hashemite Kingdom of Jordan, Resolving Jordan's Labor Market Paradox of Concurrent Economic Growth and High Unemployment, pp. 10-11.

図表 42 ジェンダー別労働カステータス (2005 年) <sup>155</sup>



図表 43 ジェンダーと失業 (2005 年) <sup>156</sup>



## (2) パレスチナ難民<sup>157</sup>

ヨルダン政府は、外務省パレスチナ局を通じてパレスチナ難民キャンプにおける行政及び治安問題を所管している。また、難民キャンプ内の水道管、下水システム、電気、道

<sup>155</sup> WB (2008), Hashemite Kingdom of Jordan, Resolving Jordan's Labor Market Paradox of Concurrent Economic Growth and High Unemployment, p. 10.

<sup>156</sup> WB (2008), Hashemite Kingdom of Jordan, Resolving Jordan's Labor Market Paradox of Concurrent Economic Growth and High Unemployment, p. 11.

<sup>157</sup> UNRWA (2010), UNRWA Medium Term Strategy 2010 – 2015, p. 41.

路補修、住宅建設、商業施設を含むインフラといった社会サービスを管理・監督している。ヨルダン以外のパレスチナ難民が居住する地域と比較して、パレスチナ難民は比較的良好な環境におり、より多くの恩恵を享受しているにもかかわらず、パレスチナ難民に対するサービスを提供する UNRWA がこれまでと同様に保健、教育等のサービスの質を維持する為には課題がある。また、絶対的貧困状態にあるパレスチナ難民（推定 25 万人）は、難民キャンプ外に暮らす地理的要因等から見落とされることがあるため、特に貧しいと分類されるこれらパレスチナ難民に対する支援が必要とされる。

他方、ヨルダンは上述の通り最大の難民受入国であり、その規模は拡大しているにも係わらず、UNRWA の活動予算がそのペースに追いついていない。難民の生活安定化を目的としたプロジェクト・ファイナンスといった支援をドナーからの受けにくく、課題とされている。

## 添付 1 参考文献リスト

GoJ (2006), 2006-2015 National Agenda, The Jordan we strive for.

[http://www.carim.org/public/polsoc texts/PS2JOR027\\_EN.pdf](http://www.carim.org/public/polsoc texts/PS2JOR027_EN.pdf)

IFAD (2007), Hashemite Kingdom of Jordan, Country strategic Opportunities Programme.

<http://www.ifad.org/operations/projects/regions/pn/factsheets/jo.pdf>

IFAD (2007), Enable the Rural Poor to overcome poverty in Jordan

<http://www.ifad.org/operations/projects/regions/pn/factsheets/jo.pdf>

MoPIC (2011), Overview: Jordan's Executive Development Program (2011-2013).

<http://www.mop.gov.jo/uploads/Overview-Ex%20%20Development%20Program%202011-2013-March%202011.pdf>

Ministry of Tourism and Antiquities (2011), The National Tourism Strategy 2011-2015 for Jordan.

[http://www.mota.gov.jo/en/portals/0/NTS\\_2011-2015\\_English.pdf](http://www.mota.gov.jo/en/portals/0/NTS_2011-2015_English.pdf)

MoPIC/UN Jordan (2010), Keeping the Promise and Achieving Aspirations, Second National Millennium Development Goals Report.

([http://www.undp-jordan.org/uploads/publications/UN\\_1292424706.pdf](http://www.undp-jordan.org/uploads/publications/UN_1292424706.pdf) )

MoPIC/UNDP Jordan/JOHUD (2004) , Jordan Human Development Report 2004, Building sustainable livelihoods.

[http://hdr.undp.org/en/reports/national/arabstates/jordan/jordan\\_2004\\_en.pdf](http://hdr.undp.org/en/reports/national/arabstates/jordan/jordan_2004_en.pdf)

MoPIC/UNDP Jordan (2011) , Jordan Human Development Report 2011, Small Businesses and Human Development.

[http://hdr.undp.org/en/reports/national/arabstates/jordan/Jordan\\_NHDR\\_2011.pdf](http://hdr.undp.org/en/reports/national/arabstates/jordan/Jordan_NHDR_2011.pdf)

UN (2006), Common Country Assessment Jordan 2006.

<http://www.undg.org/docs/7224/CCA%20Report%20Full2.pdf>

UNDP (2007), Assessment of Development Results, Jordan, Evaluation of UNDP Contribution.

[http://www.undp.org/evaluation/documents/ADR/ADR\\_Reports/ADR\\_Jordan.pdf](http://www.undp.org/evaluation/documents/ADR/ADR_Reports/ADR_Jordan.pdf)

UNDP (2011), Human Development Report 2011, Sustainability and Equity: A Better Future for All, Explanatory Note on 2011 HDR Composite Indices.

(<http://hdrstats.undp.org/images/explanations/JOR.pdf> )

UNRWA (2010), UNRWA Medium Term Strategy 2010 – 2015.

<http://www.unrwa.org/userfiles/201003317746.pdf>

WB (2010), Confronting Poverty in Iraq.

<http://web.worldbank.org/WBSITE/EXTERNAL/COUNTRIES/MENAEXT/0,,contentMDK:22688760~pagePK:146736~piPK:146830~theSitePK:256299,00.html>

WB (2006), Country Assistance Strategy for the Hashemite Kingdom of Jordan for the Period FY2006-FY2010.

[http://www-wds.worldbank.org/external/default/main?pagePK=64193027&piPK=64187937&theSitePK=523679&menuPK=64187510&searchMenuPK=64187282&theSitePK=523679&entityID=000012009\\_20060518105917&searchMenuPK=64187282&theSitePK=523679](http://www-wds.worldbank.org/external/default/main?pagePK=64193027&piPK=64187937&theSitePK=523679&menuPK=64187510&searchMenuPK=64187282&theSitePK=523679&entityID=000012009_20060518105917&searchMenuPK=64187282&theSitePK=523679)

WB (2010), The Impacts of Refugees on Neighboring Countries: A Development Challenge, World Development Report 2011, Background Note.

[http://siteresources.worldbank.org/EXTWDR2011/Resources/6406082-1283882418764/WDR\\_Background\\_Paper\\_Refugees.pdf](http://siteresources.worldbank.org/EXTWDR2011/Resources/6406082-1283882418764/WDR_Background_Paper_Refugees.pdf)

WB (2008), Hashemite Kingdom of Jordan, Resolving Jordan's Labor Market Paradox of Concurrent Economic Growth and High Unemployment.

[http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2009/02/06/00334955\\_20090206040334/Rendered/PDF/392011JO0ESW0P11PUBLIC10Box334128B0.pdf](http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2009/02/06/00334955_20090206040334/Rendered/PDF/392011JO0ESW0P11PUBLIC10Box334128B0.pdf)

WB (2004), Poverty Assessment, In Two Volumes (Volume 1): Summary Report.

[http://www.espp.gov.jo/Vol1June1\\_revised3%20\\_2\\_.pdf](http://www.espp.gov.jo/Vol1June1_revised3%20_2_.pdf)

WB/MoPIC (2009) , Hashemite Kingdom of Jordan, Poverty Update, (In Two Volumes) Volume I: Main Report.

[http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2009/11/19/00333038\\_20091119234547/Rendered/PDF/479510ESW0v10P1C0disclosed011118191.pdf](http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2009/11/19/00333038_20091119234547/Rendered/PDF/479510ESW0v10P1C0disclosed011118191.pdf)

f

WB/MoPIC (2009) , Hashemite Kingdom of Jordan, Poverty Update, (In Two Volumes)  
Volume II: Appendices.

[http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2009/11/19/000333038\\_20091119234859/Rendered/PDF/479510ESW0v20P1C0disclosed011118191.pdf](http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2009/11/19/000333038_20091119234859/Rendered/PDF/479510ESW0v20P1C0disclosed011118191.pdf)

f

WFP/JAAH (2010), Jordan Food Security Survey in the Poverty Pockets.

<http://documents.wfp.org/stellent/groups/public/documents/ena/wfp204530.pdf>

## 添付 2 主要な情報源リスト

### ヨルダン政府

中央銀行 <http://www.cbj.gov.jo/>

計画・国際協力省統計局 [http://www.dos.gov.jo/dos\\_home\\_e/main/index.htm](http://www.dos.gov.jo/dos_home_e/main/index.htm)

### 国際機関

国連開発計画ヨルダン事務所 <http://www.undp-jordan.org/>

世界銀行 国別事業（ヨルダン）

[http://web.worldbank.org/WBSITE/EXTERNAL/COUNTRIES/MENAEXT/JORDANEXTN/0,,  
menuPK:315136~pagePK:141159~piPK:141110~theSitePK:315130,00.html](http://web.worldbank.org/WBSITE/EXTERNAL/COUNTRIES/MENAEXT/JORDANEXTN/0,,menuPK:315136~pagePK:141159~piPK:141110~theSitePK:315130,00.html)

### 貧困データ

世界銀行データ <http://data.worldbank.org/country/jordan>

国連公式 MDG データ <http://mdgs.un.org/unsd/mdg/Data.aspx>

UNDP 人間開発指標 ヨルダン

<http://hdrstats.undp.org/en/countries/profiles/JOR.html>